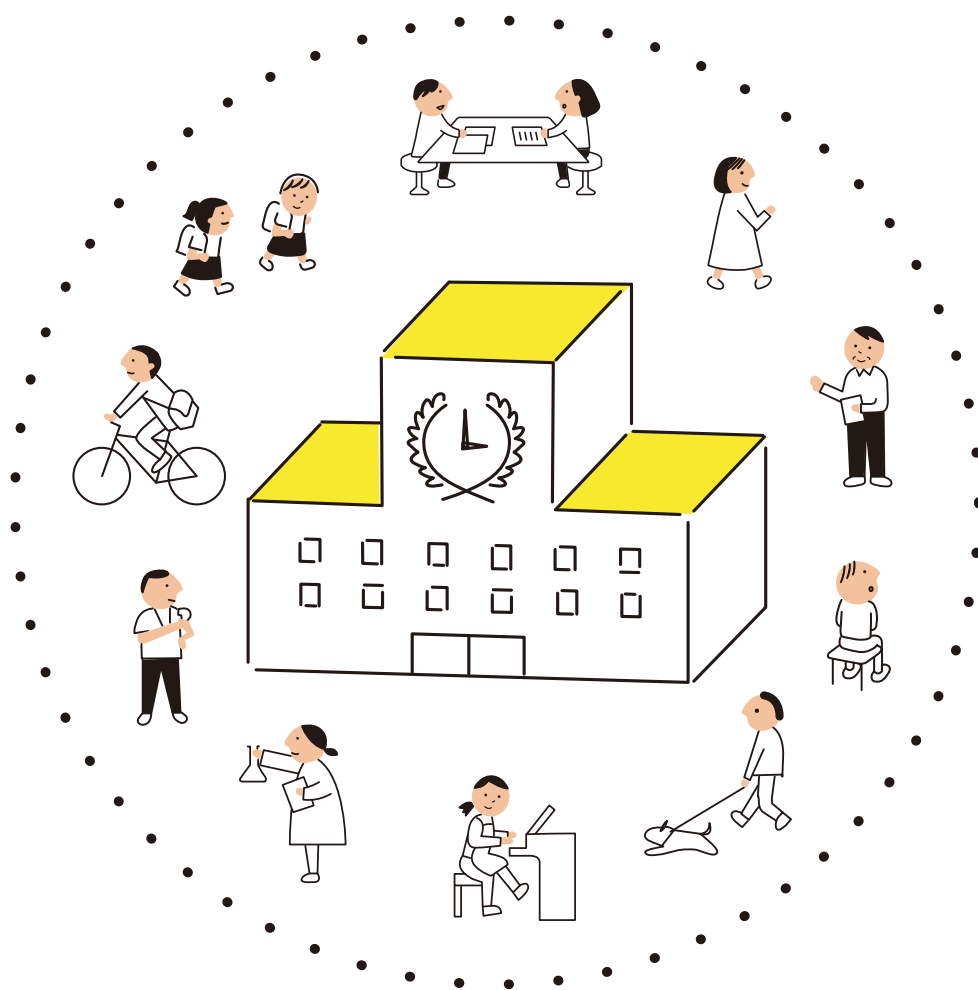


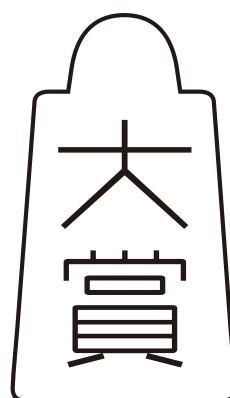
第4回 NITS大賞 事例集

令和3年3月

チーム学校で、
チャレンジだ！



NITS
National Institute for
School Teachers
and Staff Development



第4回 NITS大賞（令和2年度） 実施概要

オンラインで審査会を実施しました



目的

「NITS大賞」は、独立行政法人教職員支援機構（NITS・ニッツ）が、学校をとりまく課題の解決に向けてチーム学校で実践した取り組みを広く募集し、表彰・公開することにより、教育の現場に優れた取り組みを普及していく事業です。全国の学校や教職員に共通する課題は多く、それぞれの現場で取り組むだけでなく、互いにノウハウや経験を共有することによって、新たな展開が期待されます。「NITS大賞」では、優れた実践活動を表彰するとともに、事例集を作成し、全国の学校現場にフィードバックして、効果的な活動の実践をサポートします。

募集要項

- エントリー要件** 学校の課題の解決や教職員の資質能力向上を目指して、学校全体で計画的・組織的に取り組み、学校をとりまく課題を改善した実践活動
- エントリー資格** 学校（幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校）
- 対象期間** 最近1年間（令和元年12月～令和2年11月）に成果が上がった活動（複数年にわたり現在でも継続している活動も含む）
- 審査基準** ①課題の重要性 ②汎用性 ③先進性 ④独創性 ⑤効果・影響度

応募数 216点

審査 審査委員会を開催し、議論形式で審査

優秀賞10点、審査委員特別賞6点を選出

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、大賞選出のために行う優秀賞受賞校による活動発表会はいませんでした。

審査委員の全体講評

審査委員長 国土舘大学 教授 北神正行

応募された216点すべてに目を通すと、コロナ禍の中で、子どもたちの学びを何とか保障しようと、教職員や保護者がフル稼働で取り組む姿が見えてきました。そこには、この状況を乗り越えようとする子どもたち自身の力もあったと感じます。一方で、カリキュラム・マネジメントを核とした教育課程の開発、授業づくり、若手教員の育成など、近年の共通課題についても深掘りされており、回を重ねてきたNITS大賞の手応えを感じています。ぜひ多くの学校がNITS大賞を活用し、さらなる成長につなげていただけたとうれしいです。



ベネッセ教育総合研究所 主席研究員 木村治生

審査は、課題—実践—成果と明確に展開されているか、課題に対して具体的な方策をとっているか、それが教員の指導に生かされているか、子どもの資質・能力向上にきちんと還元されているか、などの視点で行いました。エントリーシートからは、多くの学校で、教職員が子どもたちのためを思って資質・能力向上に果敢に挑戦している様子が伝わってきて、とても勇気づけられました。



スタディサプリー教育AI研究所 所長 小宮山利恵子

全国の先進事例をたくさん知ることができて、私自身の学びも多かったです。クラウドファンディングの活用、Apple Booksでの無料配信、iPadの管理の簡易化、TwitterとWebサイトの連動による情報提供、クラウド型学習支援システムの学校説明会、アプリ活用によるアンケート業務の効率化など、学校現場での様々なチャレンジが素晴らしいと思います。



大阪市立大空小学校 元校長 木村泰子

一斉休校やオンライン授業などにより、学校現場にいる教職員たちが本来目の前にいるはずの子どもたち、特に困っている子どもたちになかなか目が届きにくい状況だったと思います。そんな中でも、コロナ禍の今だからできることを見つけて実践された事実は、全国の学校に勇気と貴重な学びを届けてくれるものでした。ありがとうございました。

東北大学大学院 准教授 青木栄一

審査では課題設定を重視しました。総花的ではなく、自校の課題をしっかりと絞り込んでいるかがポイントです。ただ、今年はコロナ禍で、教育界全体がどうしても目の前の課題に追われ、オンラインでどう工夫するか、など教育技術に終始しがちだった印象があります。全体として、近年の学習指導要領に見受けられる教育内容や教育方法の「卓越性」といった先進性への注目度は依然として高いので、平等や公正性など教育の基本を重視した実践も大事、という視点で審査をしました。



玉川大学 教授 森山賢一

受賞された取り組みに共通することは、各学校の状況、直面している現状についてしっかりと把握し、実践の確かさや深まりを継続的に検証しているということ、さらに教職員間の協力、協調の中で取り組みが進められていることです。また、研究への努力が研究を推進していく中で自分自身にはね返り、実践を方向づける力として、本当に教師の身に付いたものとなっているかどうかを問題とする実践的観点が明確に示されていました。



読売新聞社 論説副委員長 富所浩介

審査をしながら「こんなに熱量を持った先生たちが各地で活躍されているのか」と感銘を受けました。地域色豊かで、学校の個性を生かした取り組みが多く、生き生きと学校生活を送る子どもたちが目に浮かびました。今年は「働き方改革」や「カリキュラム・マネジメント」などの報告が目立ちましたが、こうした実践が「子どもたちと向き合う時間の増加」や「教育の質の向上」につながってほしいと願っています。



宮城教育大学 教授 本図愛実

NITSの研修に参加した教職員が、学校に戻って「いい学校づくりをしていこう」と実践していることがよくわかりました。研修を受けた側だけではなく、研修を行っている側にとっても、研修の成果として受け止める良い機会になっていると感じました。革新性は高くなくとも、継続性が期待できる、汎用性の高い実践もとても大事だと思いました。



第4回NITS大賞(令和2年度)

優秀賞

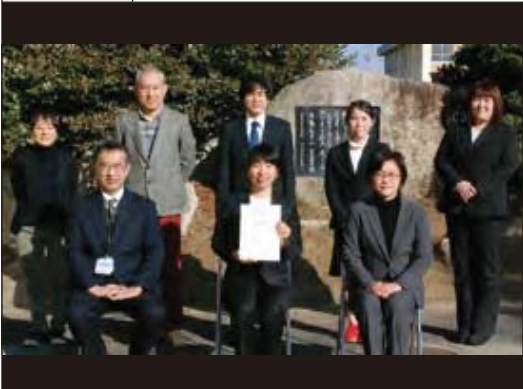
※掲載は賞ごとにエントリー番号順となっています。

感動が繋ぐオンライン学習 ～計量分析×カリマネ＝安心の214～		福岡県立戸畑高等学校	
活動概要	臨時休業中の令和2年4月21日から5月18日までは、臨時の時間割を作成してZoomによるオンライン授業を実施し、学校再開後は、授業中のICT利活用だけでなく、「オン」で始まり「対面」で開催した「新しい体育大会」や「オンライン生徒会引継式」等、オンと対面を柔軟に組みあわせ、感動や達成感を共有する「新たな学び」に取り組んだ。		
		アピールポイント	カリマネのPDCAの評価をテキストマイニングによるデータ比較で実施し、学びに向かう力の肯定的変容をマクロに分析した。結果を当時15台しかなかった配信用PCの効率的な機材運用に反映させ、214回のオンライン授業を実施することができた。
		評価点	コロナ禍への対応という全国的課題に対して、「誰でもすぐにはじめられる」オンライン学習の導入に向けて取り組んだ先進的事例として評価できる。特に、生徒の学びを保障するためのカリキュラム・マネジメントの展開を確かなエビデンスに基づく戦略として計画的に実施しており、その方法的手法の発信としての意義も高く評価できる。

地域と創るエネルギー教育 ～あきらめなければ夢は叶うを信じて～		大阪府八尾市立曙川小学校	
活動概要	平成28年度に経済産業省資源エネルギー庁主催のエネルギーモデル校に認定されてから、「あきらめなければ夢は叶う」を合言葉にエネルギー環境教育に取り組んできた。人が乗れるソーラーカーやホタルが育つエコなビオトープづくり、非常用電源にもなる自転車発電イルミネーションなど、地域や環境団体と協力しプロジェクトを達成してきた。		
		アピールポイント	ホタルのためのビオトープづくりの資金は、公立小学校では全国初となるクラウドファンディングで集めた。地域の協力でゲンジボタルの完全養殖に成功した。さまざまな取り組みが評価され、気候変動アクション環境大臣表彰も受賞した。
		評価点	保護者や地域との連携を取り入れていること、児童がデザインし、堺工科高校の生徒が実装することにより、アイデアだけで終わらせていないこと、絵本化するだけではなく、Apple Booksで無料配信し、誰でも読めるようにしたこと、これから公立学校でも普及していくであろうクラウドファンディングをいち早く取り入れたことなどを高く評価した。

アカデミックに創むる改革 ～未来の創り手若手教員の希望を育む～		石川県立輪島高等学校
活 動 概 要	未来の創り手若手教員育成のための取り組みである。新たな校務分掌システム構築や教育環境整備により働き方改革を図り、生徒に向き合う時間を十分に確保する。また、充実した校内研修でスキルアップを図り、業務にかかる時間削減や悩みの解決を目指す。さらに、若手主体のプロジェクトチームの編成により学校参画意識を向上させる。	
	アピールポイント	タイトル「アカデミックに創むる改革」は、赤田（あかだ）英明、上野創（はじめ）両校長先生のお名前からいただいた。学校長を中心に学校全体で若手教員の夢を育む活動であることをイメージしている。ベテランが積み重ねた財産の継承を図る。
	評価点	若手教員を創り手と位置づけ、働きやすさを追求している。小さなことであっても若手教員が見直しの視点を持ち、それらの案が採用されていくことは、若手教員の学校づくりにおける自己肯定感の向上につながる。教職員全体においても信頼感が醸成され、好循環を導いていることが理解できる。

不登校防止システムの構築 ～職員の連携と支援室の整備を通して～		福島県福島市立福島第四中学校
活 動 概 要	学習支援室登校の方法・目標を明確にし、事務職員を含む全教職員で共通理解を図ること、および、いつ、どの生徒が登校しているのかを「見える化」することにより、多くの職員が対象となる生徒に関われる体制づくりを行った。同時に、学習支援室の室内レイアウトや、紹介パンフレット、家庭訪問カードの内容・デザインを工夫し、不登校生徒の登校促進を図った。	
	アピールポイント	生徒は、多くの教員に自己の存在を知ってもらい、声をかけてもらえることで、自己肯定感、安心感を高め、登校日数や授業に参加する回数を増やすことができた。教員は、復帰困難と考えていた生徒が、働きかけによって登校可能になり、職務に充実感を感じ、より意欲的に支援に取り組むという相乗効果が得られた。
	評価点	重要な課題である不登校についての課題認識が適切であり、それをもとに課題設定が明確になされている。限られた校内資源を有効に活用する点で、汎用性に富んでいるほか、施設整備にも配慮する点で独創性がある。また具体的に効果を中期的に検証しただけでなく、実際に顕著な改善が実現した。

ガイダンスシートの導入 ～学習単元を意識するための工夫～		茨城県日立市立久慈中学校
活 動 概 要	Guidance(案内・指導・手引き)と銘打ち、学習者にとって「学習単元を意識する手引き」となることを目標とする1枚のシートを学習に取り入れた。①前単元からのつながり ②単元の学習計画・内容 ③毎時間の振り返り ④単元のゴール ⑤次単元へのつながり ⑥他の教科との関連 ⑦単元を通しての振り返り ⑧教師からの評価、の8項目を1枚のシートで完結させる。	
	アピールポイント	本ガイダンスシートが、単元の学習計画・内容、振り返り、他の教科との関連、教師からの評価など8項目を1枚で完結している点。「指導と評価の一体化の必要性を明確化すること」を踏まえ、単元や題材などの内容において適宜評価をするための手立ての一つとなる点。
	評価点	中学校における子どもたちの学習意欲向上は、生徒指導問題の解決にもつながる重要なテーマである。教科の枠を超えて学習意欲を高める協働的な取り組みはできそうではない。校内研究として学校全体の取り組みとして位置づけられているので、今後、多くの教科への広がり期待できることも含め高く評価した。

夢を持ち自ら学ぶ子へ ～コロナ禍の休校で必要な資質は？～		大分県別府市立亀川小学校	
活 動 概 要	コロナ禍におけるオンライン保護者アンケートから「自分から学習に取り組めない」という声が多く上がった。そこで、学校の教育目標に主体性を表す「自ら」という文言を盛り込み、教職員には職員室通信、保護者にはWebサイト、地域には啓発チラシで課題とゴールを共有し、それぞれが「夢・目標を持つ子」「自ら学ぶ子」を育成するためのアプローチを行った。		
	ア ピ ール ポ イ ン ト	コロナ禍において、Webサイトで「自学のすすめ」コーナーをシリーズで掲載し、保護者の啓発と連携に努めた。また、子どもたちに家庭学習で自ら学ぶ取り組みを進めるとともに、地域人材を活用し夢や希望を持つことの大切さを学んだ。その結果、子どもたちが主体的に学習に取り組む姿勢を育成することができた。	
	評 価 点	「子どもに夢がない、主体性が育っていない」は多くの学校の共通課題。特にコロナ禍により課題は拡大した。その中で、当該校は「夢」をもつ重要性を子どもに伝え、保護者や地域と協力して子どもの主体的な学習活動につなげている。学力の向上や不登校がなくなるといった具体的な成果が表れている点も評価できる。	

チーム広南で未来を創る～開発的アプローチで資質・能力育成～		広島県呉市立広南中学校	
活 動 概 要	創造的な教育活動を進めるには、問題解決アプローチ（PDCA）だけでは難しい。そこで、開発的アプローチ（DDDD）の手法を用いて、夢を持ち挑戦する場をカリキュラム・マネジメントにより設定、実践することで、生徒に資質・能力の育成を図った。生徒会活動や総合的な学習の時間をはじめとする特色ある学校づくりに効果を上げた。		
	ア ピ ール ポ イ ン ト	未来志向で創造的な教育活動を実践するには、開発的アプローチ（DDDD）が適している。また、地域と協働し地域の良さを生かした取り組みにも適している。一方で、危機管理などの問題解決には、問題解決アプローチ（PDCA）が効果的である。	
	評 価 点	PDCAを着実に回す実践は多いが、当該校はそれだけでは新しい未来を創造するのに十分ではないという課題認識に基づき、研修で学んだ開発的アプローチ（DDDD）を採用して創造的な学校づくりに取り組んでいるところに独自性がある。学校改革のモデルになる事例。活動を通して、子どもの資質・能力の育成が意識されている点も良い。	

学びがつくる三方よし ～社会に開かれた総合的な学習の時間～		島根県知夫村立知夫小中学校	
活 動 概 要	離島にあって極小規模の小中一貫校の強みは何か。それは、「生活科と総合的な学習の時間の 9年間の学びをつなげ、地域と関わりをもちながら子どもにこれからの厳しい時代を生き抜く力をつけること」だと考えた。学校の出口となる中学3年生の総合的な学習の時間の改革と、そこに向かう系統的なカリキュラムづくりの3年目の取り組みである。		
	ア ピ ール ポ イ ン ト	生活科と総合的な学習の時間の小中9年間の系統的なカリキュラムの改善・運用を始めて3年目。学びを重ねた子どもが自身の成長を実感し、教員が子どもの成長を喜び、学習に関わった地域の方が地域課題解決へ向けての想いを再燃させる状況が生まれたこと。	
	評 価 点	子ども・教員・地域の課題を、PBL活動を通じて乗り越えている。学校が地域の課題（高齢化、高齢者のエンディング）に果たす役割が示されると同時に、15歳で地域を離れなければならない子どもたちに必要な資質・能力の育成という切実な問題に応える実践である。PBLの具体的な取り組みとして示されているエンディングノートの開発が素晴らしい。	

つながる学校図書館 ～多機能化による開かれた学びへ～		静岡県浜松市立芳川北小学校	
活 動 概 要	学校図書館に関わる人々がプロジェクトを通してつながることで、チームとしてのビジョンを共有し、様々なアイデアを具体化していくことができるように、「つながる学校図書館プロジェクト」を構想。学校図書館に関わる人々がエンゲージメントを形成し、つながりの中で子どもたちを育み、学校図書館の多機能化による「開かれた学び」の実現を目指した。		
	ア ピ ール ポ イ ン ト	「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、プロジェクトを構想。「ブックカフェ」「わくわくライブラリー」「動く図書館」の三つの取り組みを連動させ、「チーム学校」としての連携の輪を広げた。また、「学びのマップ」を作成・共有し、カリキュラム・マネジメントの視点から、教育活動を推進するとともに、キャリア教育にもつなげた。	
	評 価 点	良書との出会いは、人生を豊かにする。学校図書館を効果的に活用するため、ブックカフェやわくわくライブラリーの取り組みを通じ、子どもと図書館の距離を縮めた好企画と言える。学校司書らが学習に必要な本を廊下に届ける「動く図書館」は、とても面白く、汎用性も高い。	

どんな時も子供が真ん中！ ～休校中も子供を伸ばし続ける学校に～		熊本大学教育学部附属小学校
活 動 概 要	「どんな時も子どもが真ん中！子どもの学びや子どものための実践研究を止めない」という熱い思いで、蓄積した知見やスキルを総動員し、①生活リズムや体力の維持、②学習習慣の確立、ハイブリッド型学習による学力保障、③保護者のサポート体制の構築、④ICT活用による情報共有及び実践的研究維持のシステム構築などに「チーム附小」で取り組んだ。	
	ア ピ ール ポ イ ン ト	子どもを学習活動に誘う授業動画配信総数は430本超。学校再開後の児童アンケートでは、授業について「わかりやすかった」と回答した児童96%、「楽しかった」と回答した児童93.2%、ストレスは低傾向だった。取り組みの全容は本校Webサイト上でも公開中。
	評 価 点	「どんな時も子供が真ん中」を言語化し、常にぶれずに学校づくりの中心に据えた実践は、子どもを主語にした学校づくりに大いに学ぶものである。「想定外も子どもを伸ばし続ける」との目的を全教職員で共有し、実情に応じた「柔軟な組織編成」がチーム力の向上につながっている。「柔軟な対応力」は、まさに、全国の学校現場が学ぶところである。

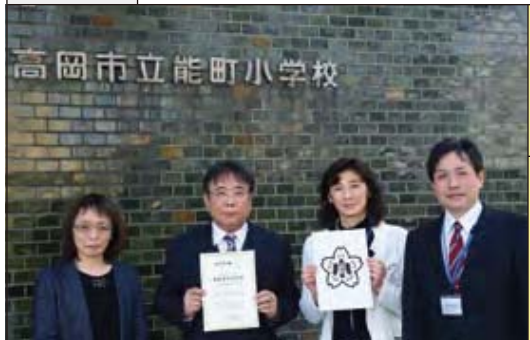
第4回NITS大賞(令和2年度) 審査委員特別賞

感染症対策時の子ども支援 ～コロナ禍にココロ繋げるお便り交換～		香川県高松市立鶴尾小学校	
活動概要	新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休業の期間、児童の心と学力をどう支えていくのかという大きな課題ができた。それに対し、学級担任からの手書きメッセージや学習課題を、1週間に1回程度家庭へポストイングし、郵便葉書で返事を求めるシステムを整えることで、児童に直接会えなくても、心を繋げて児童を支えていこうとした。		
	アピールポイント	子どもの心を支える「お便り交換」を、学力向上や、友だち・地域とのつながりの確保等に、ステップアップさせた。また、書き損じ葉書の提供を広く地域にも呼びかけたことでマスコミに紹介され、学校に対する大きな信頼と校区内外からの協力を得られた。	
	評価点	はがきをパイプに地域とのつながりを深め、子どもに直接返る実践は、すべての子どもの安心につながったであろう。職員室のみんなで今できることを考え、行動に移した実践は学ぶべきところである。はがきを送り、返事が来ない子どもとの関係性をつなぐところなど、コロナ禍で誰一人取り残さない鶴尾小のチーム力は大いに評価されるものである。	

みんなで情報モラル教育 ～学校・児童会・家庭が一体となって～		岩手県盛岡市立桜城小学校	
活動概要	学校、児童会、家庭が一体で情報モラル教育を行った。学校はカリキュラム・マネジメントの視点から、道徳、特活を中心に情報モラル教育の系統性を見直した。児童会ではメディアルールを新設し、情報モラルを守る意識の向上につなげた。家庭へは、盛岡市で出されているルールの確認や学びフェストの結果の発信を通して、意識の向上を図った。		
	アピールポイント	情報モラル教育をその場の抑制指導とは捉えず、将来どのように使えばお互いに安心・安全に暮らすことができるのかまで見越した、長期的視点の教育である。また一方的な指導ではなく、児童や家庭にも問題意識をもたせることで、子どもを育成する幅を広げている。	
	評価点	SNSを使ったネットいじめが社会問題化しており、情報モラルは小学生にも欠かせない時代になった。ネットの怖さばかりを強調するのではなく、共生を前提として地域や家庭とも連携した点に共感した。子どもたちが安心安全に暮らすため、発達段階に応じて6年間学び続ける体系的教育の視点も優れている。特に、子どもたちが自らルールを考える点は、特筆に値する。	

高め合い支え合う組織作り ～主体性と繋がりを育むPDCA改善～		宮城県仙台市立沖野小学校	
活動概要	「共有化」「語り合い・学び合い」をキーワードに PDCAサイクルの改善を図った。学校の諸データを「学校経営シート」として整理し、全職員で分析する機会を設けたり、OJTの充実を図り、職員が語り合う場と機会を多く創ったりして、職員の主体性の向上と、高め合い支え合う職場の仕組みづくりを行った。		
	アピールポイント	学校経営シートの分析とスローガンの作成は、実態と目標の共有化に繋がった。中堅・ベテラン教員を講師とした研修会や年代別ワークショップは、中堅・ベテラン教員の自主性の向上に繋がり、シャワー効果による職員全体の意欲向上に繋がった。	
	評価点	学校PDCAを改善することで、教員がつながりを深め、主体的に活動できる組織をつくることを目標として取り組んだ中で、語り合いや学び合いを通じて、課題や目標が共有化明確化された。学校経営シートの活用、チームトーク、外部との共有化など、計画的な改善をもとに成果がみられた。	

一点突破Webアンケート～調査の効率化と業務改善の推進～		滋賀県高島市立安曇川中学校
活 動 概 要	調査やアンケートの業務が増え続け、職員の疲労感や徒労感が高まっていた。Webアンケート導入により、とりまとめや集計作業の時間と手間を削減し、教職員が本来の業務に向き合う時間と心の余裕を持ち、モチベーションを持続できた。調査手順や効率的な分析手法の共有により、授業改善や業務改善、行事の精選などに対する職員の意欲が高まった。	
	アピールポイント	各種調査やアンケートなどをWebで実施したことにより、教職員の単純労働の時間が削減できた。モデルケースを周囲に紹介、啓発していくことで、学校内、学校間、市教育委員会、それぞれの職域でWebアンケートの手法や活用法が認知された。市教育委員会や市内の他の小中学校でも、Webアンケートが活用され始めた。
	評価点	学校の働き方改革という重要課題を明確に課題設定した好事例。一般的な各種アンケートを効率化、省力化して実施した点は汎用性が高く、既に他校にも波及している。既存の情報機器資源の活用に独創性があり、学校でWebアンケートを導入した点も先進性がある。効果検証も可視化、操作化されるよう、開始時からアンケート時間を測定している点も良い。

コロナに負けない学校に！ ～学校DX化で安心＆安全→信頼関係～		富山県高岡市立能町小学校
活 動 概 要	家庭との連絡をデジタルに移行(学校DX化)した。休校中は、メールからWebサイトに誘導し、課題配付方法等の詳細、授業動画や教職員からのメッセージ等を発信した。学校再開後は感染拡大防止策等を知らせたり、Zoomを活用した全校授業参観を通して、子どもたちの様子を伝えたりすることで保護者に安心感を与え、信頼関係を醸成した。	
	アピールポイント	パワーポイント等の使い慣れたソフトを活用した授業動画編集、各学年に配布したタブレットを活用したZoom活用等についての実践的な校内研修会を充実し、職員の理解と協力の中で教員全体のスキルアップができた。また、得られたノウハウ等はWebサイト等で広く公開している。
	評価点	コロナ禍への対応の中で、保護者の不安や懸念を解消しながら信頼関係をより深く構築するため、経営戦略として、ICTを活用した学校のDX化に取り組んだ事例。その全体構想と具体的な方策は他校のモデルケースとなる。この取り組みを通してWebサイトが学校の情報センターとして機能していった効果も生まれ、今後も進化・発展性が期待できる。

学力向上と学習習慣の定着 ～全校体制で取り組む学力向上大作戦～		福岡県北九州市立石峯中学校
活 動 概 要	全校体制で、学力向上・学習習慣定着を図る取り組みを行った。①「朝自習」の類題を「放課後」に取り組むという学習サイクルを作った。②希望者向けの補充学習の場として「放課後ひまわり学習塾」を毎日開催した。③家庭学習の習慣化を目指した自学ノートの活用を図った。④教師と生徒が目指す授業像を共有し、実現を目指した。	
	アピールポイント	①担当者と時間を明確にしたことで、全校体制での補充学習が可能となり、担任や教科担当の負担を軽減できた。②学力向上委員に若年者を任命し、課題と解決策をボトムアップで提案する場を設けたことで、人材育成につながった。
	評価点	学力向上という目標を明確にし、組織マネジメントの手法で実現しようとしている点を評価した。教科の壁を乗り越え、授業改善を行う際に、希望者への学習補充、困り感のある生徒への働きかけなど、より支援が必要な生徒層に重点がおかれた取り組みが含まれている。家庭学習も視野に入れ、すべての子どもの学力向上を図ろうとしている点を評価した。

応募校の声



自分たちが何をしたか、どう
いう評価をしたかななどを振
り返る良い機会となった。

見通し不透明な昨今、これ
からも先駆的な教育実践情
報を現場に提供し続けてほ
しい。

自分の学校経営を見直す
機会になったとともに、他校
の取り組みを知る良い機会
となった。

負担も少なく、
取り組みやすい
内容である。

全国から216点の
応募がありました

それぞれの学校の特色ある
取り組みを知るいい機会で
ある。

様々な実践を集約
し、発信してもらえ
るのはありがたい。

過去に受賞した取り組
みをWebサイトで見られ
る点が大変勉強になる。

コツコツと子どもたちに力
をつけている先生方の取り
組みを、これからも発信して
ほしい。

現場の励みにな
るので今後も
継続してほしい。

学校の改善や教職員の
成長につながる。

フォーマットが作成
しやすく、応募しや
すい。

自分の実践をまとめること
で、それを他の職員に共有
でき、次の取り組みの意欲
につながる。

第3回の大賞受賞校が語る 「NITS大賞、その後」

広島県呉市立広南中学校

小中一貫で資質・能力育成 ～社会に開かれた教育課程で未来創造～

活動概要

学校を核として地域が元気になるカリキュラムの創造を目指し、「貫きカリキュラム」の開発・改善をはじめ、カリキュラムマップの作成、教科横断的の学校段階間接続した地域協働型のカリキュラムの創造など挑戦的な試みを実施。



荒本礼二 教頭

大賞受賞後、一番に喜んでいただいたのは 地域の方でした。

「学校も頑張っている。私たちも頑張らんと。一緒にグローバルな地域を創造していきましょう」。これは、自治会長さんの言葉です。社会に開かれた教育課程で未来創造をテーマに、一貫して地域に根ざしたカリキュラムに挑戦してきた地域の学校の一つの姿だと感じています。小中一貫教育校である本校(広南学園)は、受賞により、これまでの理論と実践が価値付けられ、小学校と共に、志を新たに自信をもって日々の教育活動に励んでいます。本学園のカリキュラム・マネジメントの考え方(学び方の基軸)「志を抱く→準備をする→挑戦する→振り返り」の中でも、教科等を横断した貫きカリキュラムや各教科等でのまとまりの振り返り、各学期末や学年末、そして小中をつなぐタイミングで、教育活動全体を通して自分の成長を振り返り、次への志を抱かせる振り返りの取り組みに挑戦しています。保護者や地域の方たちも子どもたちの成長を実感し、次への意欲につながっています。NITS大賞は、学校が大切にしてきた取り組みを価値付け、明日からの実践のエネルギーとなるものです。

滋賀県彦根市立佐和山小学校

あこがれがつなぐ学校文化 ～子供の力で発展し続ける学校づくり～

活動概要

6年生にあこがれを持つ学校づくりは、学校力のアップに多大な効果を期待できる。子どもの目線からスタートし、学校の価値観や文化を変えながら、いかにそれを継承していくか、ということに取り組んだ。子どもの視点とそれを支える学校教師の視点があくまにかみ合ったプロジェクト。



川端清司 教諭

NITS大賞の受賞は、我々に自信を与え、 コロナ禍でも方向性を見失わない羅針盤となっています。

本実践は、子ども同士のつながりの力で学校改善を目指しますので、新型コロナウイルス感染症の影響は計り知れないものがありました。現6年生は、先輩から伝統のバトンを受け取る貴重な2カ月を失いましたが、それでもこれまでに培った「あこがれ」や「伝統」をキーワードにして、立派に佐和山小学校のリーダーとして活躍しました。先生方もまた、コロナに負けない佐和山らしい取り組みを継続できるように、話し合いと実践を繰り返しています。今後も「佐和山あったか魂」を大切に、より良い学校づくりにみんなで挑戦していきます。本校を参考に、学校独自のよさを生かした「あこがれ」と「伝統」の仕組みづくりに挑戦しておられる学校もあり、NITS大賞の影響力の大きさを実感しています。我々自身も、他校の実践から学び、よく似た課題でも解決の視点や方法が違うので、多くのヒントを得ることができました。第4回NITS大賞にエントリーされた皆様の事例から、今年もたくさん学ばせていただきます。

優秀賞	【学校名】 福岡県立戸畑高等学校
	【活動名】 感動が繋ぐオンライン学習 ～計量分析×カリマネ＝安心の214～
解決すべき課題： 4月初旬臨時休業中コロナ禍の対応のため、「今、自分たちがどこにいて、どこに向かうのか」を知るため、カリキュラムマネジメントの分析図（田村 2014 他）を活用して、「誰でも、すぐにはじめられる」オンラインの学びの導入を模索した。しかしながら、当時、オンラインでは、極端に生徒の様子を見取るリソースが不足していることがわかったため、速やかに新たな計測手法を講じながら導入を超短期で進める必要があるとの課題が判明。 （参考・引用文献）田村知子「カリキュラムマネジメントー学力向上へのアクションプラン」日本標準, 2014	
目標・方針： 市場分析等で活用されるワードマイニングによる計量分析を導入し、授業後のオンラインリフレクション※ 1 の自由記述を匿名化しデータ化させ、オンライン学習導入日と1週間後の生徒の意識と学びに向かう姿勢をマクロに比較し、エビデンスベースのカリキュラムマネジメント分析を超短期で2回実施し、「目標をもった緊急時のオンライン学習」を導入・継続するという教務経営を行う。 ※1ペーパーベースのリフレクションシートによるふり返りはH29導入済	
活動内容： 4月15日から 進路部情報広報課によるuard面の整備と教務部によるカリキュラム・マネジメント、3日で18回の両部主催のオンライン配信研修会、情報セキュリティの策定を行い、緊急プロジェクトとして開始 4月21日 “ちよとだけ双方向オンライン学習”を全学年で一斉スタート。⇒計量分析 4月27日 2回目の計量分析実施。匿名化処理したデータによるトレンド分析と生徒の学びの劇的な肯定的変容を数値化⇒エビデンスベースのカリキュラム・マネジメントの2回目実施。 同期型双方向授業を継続・加速させ、「『対話(※2)による学びをあきらめない』『誰でも、いつでも』可能なオンライン授業』という、持続可能な目標のある学びの保障を行い続ける」教務方針を決定。 5月18日 オンライン学習終了、分散登校→一斉登校 6月2日 再度感染拡大に伴い速やかに分散登校を実施。オンラインと対面のハイブリッド型で随時対応。 7月31日 オンライン終業式、生徒会引継ぎ式、体育大会結団式を校内で実施。生徒達がオンラインで語り、すぐに教室にその「想い」は伝わる。「感動」がオンラインと対面をシームレスにつなぐ！	
活動の成果： ワードマイニングによる計量分析を通したエビデンスベースのカリキュラム・マネジメントは、情報が極端にすくなかった臨時休業中に能動的な教務運営を可能になり、約1月で214講座のオンライン学習へとつながった。	
アピールポイント（アイディアや工夫）： ・ワードマイニングによるエビデンスベースのカリ・マネを4月の緊急時に実施し、学びを止めることがなかったこと。 ・対話(※2)による学びをあきらめないという目標をもった持続可能な教務運営ができたこと。 ・教員の協働性が発揮され、持続可能で、ハイブリッドでしなやかなオン・オフの授業展開が可能であったこと。	

優 秀 賞	【学校名】 大阪府八尾市立曙川小学校
	【活動名】 地域と創るエネルギー教育 ～あきらめなければ夢は叶うを信じて～
解決すべき課題： 「将来エネルギーがなくなっても何とかかなと思う」と回答する児童が3割以上もいることがわかり、エネルギーの視点を持って将来を考える児童の育成の必要性を感じた。そのために省エネ活動だけでなく、エネルギーの安定供給の重要性に気づかせる必要があった。	
目標・方針： 「地球のために、わたしたちができること」をテーマに全校で取り組むエネルギー教育。エネルギーを楽しみながら「感じ」「考え」「創る」活動を、低中高のカリキュラムマネジメントに基づき実践。各学年の教科でエネルギー教育に関連する内容を年間指導計画に加え、職員全体で取り組めるよう工夫。専門知識や技能が必要な場合は保護者や地域の電力関係の技術を持つ方々の協力で実施した。	
活動内容： 「ソーラーカープロジェクト」堺工科高校ソーラーカー部と協力し、児童がデザインしたソーラーカー(写真1)を高校生が作製。ソーラーパネルで充電した電力を使って走るソーラーカーが完成。(理科・総合) 「自然と科学の共生ホタル育成プロジェクト」 校内にビオトープを作製(写真2)し、ポンプで水を循環させる。電力をソーラーパネルで賄う工事を保護者の協力で実施した。太陽光だけでは電力が足りないため、コンセントからの電力に切り替わるハイブリット電源にすることで電力の安定供給の重要性に気づくことができた。(社会・理科・総合) 「発電イルミネーションプロジェクト」 児童が自転車が発電した電力をバッテリーに充電し、自分たちで組み立てたLED電球を光らせて文字を点灯させるプロジェクト(写真3)。電力会社に勤める保護者の協力で、安全対策も踏まえた上で児童が電球の配線等を体験した。インバーターで100Vに変圧することで、災害時用の非常用電源としても使用できるように作製。 「発電お好み焼き横丁 絵本化プロジェクト」 楽しく日本の電気エネルギーについて学習できるように作製した創作落語「発電お好み焼き横丁」を誰でも指導できるように絵本化するプロジェクト(写真4)。PTA読み聞かせ団体「ぶくすま」の協力で絵本化することができた。	
活動の成果： ・ソーラーカー試乗体験で「高校生が作ったんだから、これからの将来は、ぼくたち子どもが作っていくんや。あきらめなければ夢は叶うは、ホンマなんや！」と将来に希望を持つ児童が増えた。 ・ホタルプロジェクトでは循環ポンプの電力の一部を太陽光エネルギーで賄い、卵から成虫へ育て産卵させる完全養殖に成功した。ホタルの夕べを地域行事として実施。 ・発電イルミネーションの点灯式は地域の方も集まり、災害時には移動可能な非常用電源になることを校区の高齢者にも伝えることができた。活動を通し、アンケートの肯定的な回答率が上がった。(表・グラフ1) ・絵本化を読んだ読者からは「日本の電気エネルギーを子どもと一緒に勉強できた。」と感想をいただいた。	
アピールポイント(アイディアや工夫)： 「あきらめなければ夢は叶う」を合言葉に池の工事資金を獲得するために、公立小学校では初めてとなるクラウドファンディングを実施し、ゲンジボタルの完全養殖に成功した。ソーラーカーはアリオ八尾で開催された八尾市環境フェスティバルに出展し、一般の方にも試乗体験をしてもらい、再生可能エネルギーの特徴を知ってもらうなど、エネルギー教育を広めることができた。絵本化プロジェクトはApple Booksで無料配信することに成功し、全国の読者に日本の電気エネルギーの現状について考えるきっかけを提供することができた。	



写真1. 児童が乗るソーラーカー



写真2. 花壇を改築したビオトープ 曙川小生まれのゲンジボタル



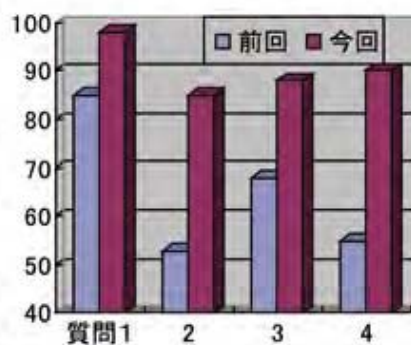
写真3. タイマーで点灯する発電イルミネーションは大阪モデルの達成カラーに合わせて色を変更できる



写真4. 保護者と協力して作製した絵本を無料配信（QRコードまたは「発電お好み焼き横丁」で検索）

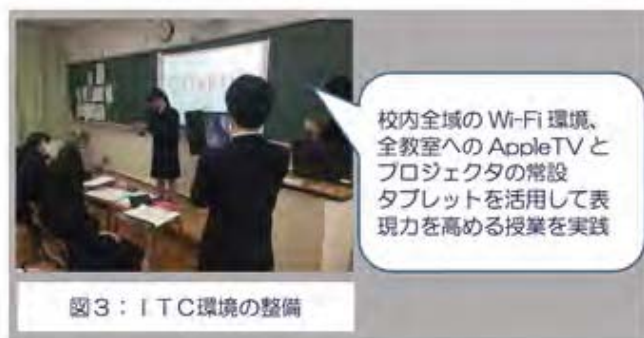
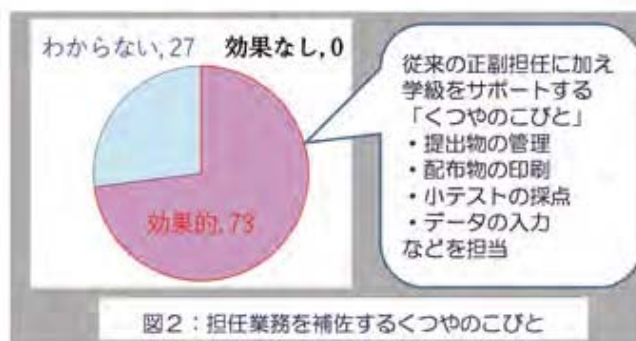
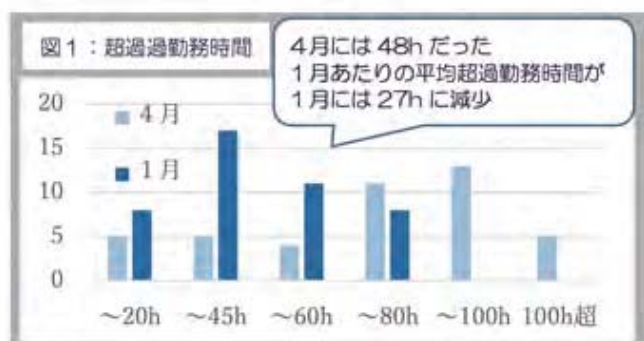


番号	質問項目	はい	いいえ	前回との比較
1	家や学校で節電しようと心かかっている。	88%	2%	↑13%
2	電気などのエネルギーのことに興味をもっている。	85%	15%	↑32%
3	電気などのエネルギーが足りなくなっても、なんとかなると思う。	12%	88%	↑20%
4	これからの地球のために、エネルギーのことを、真剣に考えている。	90%	10%	↑36%



表・グラフ1. 肯定的回答の増加グラフ

優 秀 賞	【学校名】 石川県立輪島高等学校
	【活動名】 アカダミックに創むる改革 ～未来の創り手若手教員の希望を育む～
解決すべき課題： 「①校務分掌の見直し等による働き方改革」と「②若手教員への校内研修プログラム」の両輪による、次代を担う優秀な若手教員の量と質の確保、およびその育成	
目標・方針： 本校は、教員 35 名中 5 名が新規採用、15 名が教員経験 5 年未満という若い職場である。これからの教育を担う若手教員を「未来からの留学生」と捉え、輝かしい将来を育むために次の仮説を立てた。 ①業務の平準化が達成できるように、従来の校務分掌を見直すとともに、教育環境の整備により多忙化改善を推進することで、優秀な教員候補としての人材が他業種に流出するのを防ぐことができる。 ②本校が直面する課題に即した組織的な研修体制を校内で整えることにより、若手教員の勤務時間の短縮や悩みの解決を図ることができ、将来への期待と展望を持たせることができる。	
活動内容： ①-A 「ユーティリティースタッフ(US)制度」や「くつやのこびと制度」などの、新たな校務分掌システムの構築 ①-B 校内 ICT 環境の整備と、タブレット活用授業の推進 ①-C 「ペーパーレス会議」の定着による、会議時間の削減と職員朝礼の廃止 ②-A 「若手教員早期育成プログラム(若プロ)」等の校内研修制度の充実 ②-B 「職員室ここまで変えちゃって委員会」など若手教員主体のプロジェクトチームの活動 ②-C 生徒にもタイムマネジメントを意識させる指導の徹底	
活動の成果： ①-A どの分掌にも属さない「US」の配置により、業務の平準化を図ることができ、主任層の時間外勤務を大幅に削減できた【図 1】。学級の雑務を担当する「くつやのこびと」により、担任業務の分担が図られる【図 2】と同時に、若手教員にとっては担任業務を学ぶ OJT としても機能した。 ①-B 校内全域の ICT 環境の整備により、授業改善及び準備時間の短縮が図られた【図 3】。 ①-C 会議の精選と時間短縮【図 4】、資料印刷時間と費用の削減【図 5】、職員朝礼の廃止【図 6】。 ②-A 県教委施策の「若プロ」【図 7】を活用した短時間の校内研修を、適時的・効率的に実施した。 ②-B 若手が主体となり、動線を意識した機能的な職員室レイアウト変更を実施し【図 8】、書架の整理にも工夫を凝らした【図 9】。業務遂行の効率化を図ることができた。 ②-C 生徒自身がさまざまなキャンペーンを計画し、遅刻者数を減らすことができた【図 10】	
アピールポイント（アイデアや工夫）： 1 従来の枠にとらわれない新しい校務分掌による業務の平準化 2 タブレットを活用した職員間連絡システムによる会議の精選と朝礼の廃止 3 ベテラン・若手それぞれの長所を生かしたチームとしての研修体制	



印刷作業が軽減された

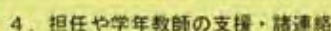
	時間外勤務	印刷
担任	2.3時間減	部数 32万カウント減
主任	7.6時間減	経費 48万円減

図5：資料印刷業務と経費の削減



優 秀 賞	【学校名】 福島県福島市立福島第四中学校
	【活動名】 不登校防止システムの構築 ～職員の連携と支援室の整備を通して～
解決すべき課題： 近年、生徒は落ち着いて生活し、どの授業にも集中して取り組む様子が見られる。しかし、家庭内環境、学業不振、特別な支援を要するものなど様々な要因から、県内の不登校生徒は1000人を超えており（令和元年7月現在）、その数は毎年増加の一途を辿っている。本校も例外ではなく、2017年3月末には全校生徒の約12%が不登校（年間30日以上欠席）となるなど、近年、不登校対策は生徒指導上喫緊の課題となっている。	
目標・方針： 学習支援室への登校の方法・目標について明確にし、職員が一体となって生徒の支援にあたることにより、不登校の出現や増加を防止する。 学習支援室の環境整備、学習支援室の広報（紹介）を充実させることで、別室登校者の継続登校および、完全不登校の改善を図る。	
活動内容： 学習支援室登校の目標、登下校方法等について生徒指導委員会で協議し、定めるとともに、職員会で全職員に共通理解を図った。特に、事務職員を含む組織全体で、「いつ、どういう生徒が」学習支援室に登校しているのかがわかる仕組みの構築を強化し、多くの職員が対象生徒に関わりやすい体制をつくった。 学習支援室の紹介プリントや家庭訪問カードなどを作成することで、完全不登校の予防・改善を図った。	
活動の成果： 年間30日以上欠席者が減少するとともに、学習支援室を利用し、登校回数を増やすことができたり、主に学習支援室で過ごしなが、授業に参加できる時間数を増やしたりできる生徒の割合が増加した。また、職員間の連携が円滑になったことで、情報の共有化が図られ、不登校の未然防止につながった。さらに、復帰困難と考えていた生徒が、教師の働きかけで登校できるようになることで、教師自身が仕事に充実感を感じ、より意欲的に生徒支援に取り組むようになった。	
アピールポイント（アイデアや工夫） ○ 学習支援室登校の方法・目標についての明確化 ○ 全職員を巻き込んだ生徒支援体制 ○ 安心して登校できる環境整備 ○ 紹介プリントや家庭訪問カードのデザイン充実→手厚い支援のイメージを強化→安心感	

1 職員室または事務室窓口で登校受付



福島県立総合支援学校の案内

☐ なかなか学校に行く気が起きない
☐ 学校に行こうとは思っているが、行く勇気が出てこない
☐ 教室に行こうとするとお股が痛くなる
そんなみなさん、まずは「学習支援室」でその第一歩を踏み出してみませんか？

★ ★ 学習支援室開設の目的 ★ ★

1. 習慣・体力
 継続して登校する習慣を身につけることで、毎日の通学、授業参加に体力面で支障がでる、足の・体力を養うにつける。

2. 自信
 日々の通学を成功とし、自信が確立されていくようにする。

3. 学習
 毎日の学習する習慣を身につけることで、授業に習っている内容を理解し、習熟していくことに基づくことができるようになる。

< 学習支援室の流れ >

＜登校したとき＞

- ① 登校したとき職員室で受付を済ませ、学習支援室へ入室し、授業を受ける。
- ② 授業を受ける前に、学習支援室で授業の準備をする。
- ③ 授業を受ける。
- ④ 授業が終了したら、職員室へ入室し、授業の振り返りをする。
- ⑤ 授業が終了したら、職員室へ入室し、授業の振り返りをする。

① 学習支援室へ入室するとき

- ① 学習支援室へ入室するとき、職員室で受付を済ませ、学習支援室へ入室し、授業を受ける。
- ② 授業を受ける前に、学習支援室で授業の準備をする。
- ③ 授業を受ける。
- ④ 授業が終了したら、職員室へ入室し、授業の振り返りをする。
- ⑤ 授業が終了したら、職員室へ入室し、授業の振り返りをする。

＜下校するとき＞

- ① 下校するとき職員室で受付を済ませ、下校する。
- ② 職員室で受付を済ませ、下校する。
- ③ 職員室で受付を済ませ、下校する。
- ④ 職員室で受付を済ませ、下校する。
- ⑤ 職員室で受付を済ませ、下校する。

① 下校するとき職員室で受付を済ませ、下校する。

- ① 下校するとき職員室で受付を済ませ、下校する。
- ② 職員室で受付を済ませ、下校する。
- ③ 職員室で受付を済ませ、下校する。
- ④ 職員室で受付を済ませ、下校する。
- ⑤ 職員室で受付を済ませ、下校する。

★ ★ 学習支援室の授業時間 ★ ★

午前中： 9時～12時
 午後： 13時～16時
 土曜日： 9時～12時
 日曜日： 9時～12時
 祝日： 9時～12時
 休校日： 9時～12時

福島県立総合支援学校 TEL 024-525-4262



Stacked bar chart showing the number of people in each age group (1st, 2nd, 3rd) from 2016 to 2020. The total number of people decreases over time.

Year	1st (Blue)	2nd (Orange)	3rd (Grey)	Total
2016	7	18	10	35
2017	10	15	30	55
2018	12	8	8	28
2019	9	9	7	25
2020	2	3	5	10

2019

2020

■不食校 ■別室食校 ■不食校 ■別室食校

Year	不食校 (%)	別室食校 (%)
2019	88	12
2020	40	60

19

優 秀 賞	【学校名】 茨城県日立市立久慈中学校
	【活動名】 ガイダンスシートの導入 ～学習単元を意識するための工夫～
解決すべき課題： 本校の学習指導における教師の課題である「単元計画表の作成が十分とは言えない状況」に着目する。そのために、生徒が単元の見通しをもって学習に取り組めない状況や学習を通してどのような力を身に付けたかが明確にならない状況が生じている。この課題を解決するために、「ガイダンスシートの作成」を提案する。まず生徒に身に付させたいゴールを設定し、その達成に向かうための「逆向き設計」の考えを取り入れたシートを作成する。これらを生徒と共有し、学習の見通しを持つとともに学ぶ意欲が高まるためのガイダンスシートの導入・工夫を行う。	
目標・方針： Guidance（ガイダンス）は、「案内・指導・手引き」と訳されるが、このガイダンスシートが、学習者にとって「学習単元を意識する手引き」となることを目標とする。①前単元からのつながり②単元の学習計画・内容③毎時間の振り返り④単元のゴール⑤次単元へのつながり⑥他の教科との関連⑦単元を通しての振り返り⑧教師からの評価、の8項目を1枚のシートで完結させる。【図1】このガイダンスシートを用いれば、指導者と学習者両者にとって単元を意識した学習が行えると考えます。	
活動内容： 令和2年1月より、現3年生を対象にガイダンスシートの活用を行った。本年度4月からは、校内研究の一つに位置づけ、学校全体の取り組みとしている。現3年生は、約9ヶ月間このガイダンスシートを活用しており、その生徒を主な調査対象とし、調査・検証を行った。 具体的なガイダンスシートの活用方法は、各教科の単元の最初に、生徒と教師が単元を見通すための時間を設ける。【写真1】そこで、「単元末のゴールを示し、この単元を通してどのような力を身につけるか、そして単元末にどのような評価をするか」を共有する。毎時間の授業後に記入した振り返りを用いて、単元の終了後には、どのような力が身に付いたか、他の教科との関連性や実生活で生かせることなどの振り返りを行う。最終的に、単元テストやパフォーマンステスト等の評価を加味し、単元の理解がどうであったかなど教師からの評価を記入し、生徒に返却する。回数が増すごとにガイダンスシートの活用の工夫も見られた。【写真2】	
活動の成果： 大きな成果として、まず教師側が「単元」を意識した点である。本校の課題であった「学習単元表の作成が十分とは言えない状況」を改善する手立てとなった。事後のアンケートによると教師側が、単元のゴールを明確に提示しバックワードデザインの考えで単元構成することができた、と全員の教師が回答した。そして、生徒へのアンケートでは91%の生徒が、「単元を意識して授業を受けるようになった」と回答している。これまで授業で使っていた自己評価カードと違う点として、「他の教科との関連」と78%の生徒が回答した。これは教師側の予想を上回ったもので、社会や理科だけではなく、道徳との関連を記述した生徒がいたこと非常にうれしく感じた。【資料1】【写真4・5】また、来年度より全面実施となる学習指導要領の「指導と評価の一体化」を図ることができるツールとなったことが成果だと感じている。学年末に評価するだけでなく、①学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、生徒自身に学習の見通しをもたせるため、学習評価の方針を事前に生徒と共有する	

場面を設ける。②学習評価を単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに行うなど、評価場面を精選する。といった課題に対して学校一体となり共通理解し、実施することができた。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・本ガイダンスシートが、以下の8つの項目を網羅している点。①前単元からのつながり②単元の学習計画・内容③毎時間の振り返り④単元のゴール⑤次単元へのつながり⑥他の教科との関連⑦単元を通しての振り返り⑧教師からの評価の8項目を1枚のシートで完結している点。
- ・新学習指導要領における、「指導と評価の一体化の必要性を明確化」を踏まえ、単元や題材などの内容において適宜評価をするため、適切な評価の場面の一つとなる点。

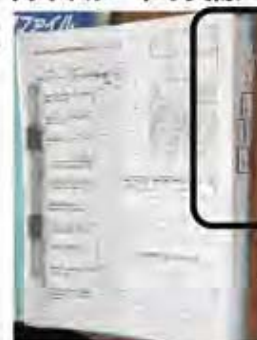


各教科とも A,B/C の評価方法は最初の授業で確認をする。【図1】ガイダンスシートの実例（英語科）



【写真1】単元のガイダンスを行っている様子（数学科）

【写真2】

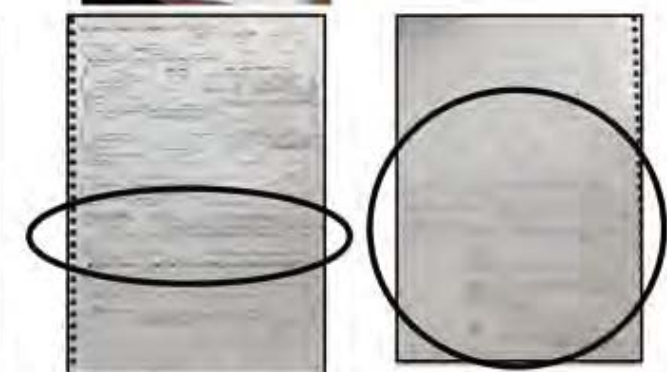


学習ファイルに章ごとにインデックスを貼り、さらに学習単元を意識させる工夫をしている例。教科の特性を生かした工夫もされている。

英語科 Unit4 To Our Future Generations の「他の教科との関連」生徒記述抜粋

- ・社会：災害での被害の大きさを学ぶことができた。
- ・学活：もし自分が海外にいるときに災害が起こっても少しは対応できると思った。
- ・道徳：大きな災害があつて中澤さんにも戸惑いがあるのに流木でバイオリンを作り、誰かのために何かをしようと行動しているところを尊敬する。
- ・音楽：震災で出た流木から作ったバイオリンがたくさんの人・音楽に広がり素晴らしい。

【資料1】



【写真3（表）・4（裏）】生徒の理科のガイダンスシート・「自然界とのつながり」は、他の教科との関連を社会科地球温暖化ととらえ自身の好きな釣りや海面の温度に関する内容が裏面にまで書かれている。

優 秀 賞	【学校名】 大分県別府市立亀川小学校
	【活動名】 夢を持ち自ら学ぶ子へ ～コロナ禍の休校に必要な資質は？～
解決すべき課題：「コロナ禍における休校中の保護者オンラインアンケートで現れた課題」（資料 1） ○休校中自ら学べない（従来の課題：子どもが夢・希望を持ってない）→次の休校に備え必要な資質は？	
目標・方針：上記課題をチームで共有しアプローチすれば「夢を持ち自ら学び続ける子」が育つであろう。 ○コロナ禍における保護者オンラインアンケートで浮彫になった課題を教育目標に位置付ける。（資料 1） ○課題や学校の教育目標を学校、保護者、地域で共有し子どもへアプローチする。	
活動内容：課題を教育目標に位置付け学校・保護者・地域で共有しゴール（夢・自ら）を目指す取組 ○共有の工夫 教育目標「夢を持ち学び続ける子」（3 年前）→「夢を持ち自ら学び続ける子」（1 年前）（学校）・教職員へ週 2 回の職員室通信（写真 3）と 1 ヶ月毎の教職員意識調査をリンクさせ意識改革。 ・自ら学ぶ「自学ノート」を推進 ・範となる子どもの「自学ノート」（写真 2）を掲示する取組。 （保護者）・配信メールと学校 H P をリンクさせ「自学のすすめ」シリーズ（図 1）で課題とゴールの共有。 （地域）・コミュニティスクールと地域自治会をリンクさせ課題と教育目標を載せた啓発チラシ（写真 1）を地域全戸に配布し各家庭の見えるところに掲示、「見える化」をはかり課題とゴールを共有。・自治会長が子どもを褒める場を設定。地域の方から子どもへの励ましの言葉を公募しホームページに掲載。 ○地域人材の積極的活用で課題解決を目指す。困難な状況でも夢・目標を持ちあきらめずに頑張っている。 ・子どもの発案で課題解決を目指す。（地域人材夢を語る「創業者」の活用 資料 2） ・ラオスパラリンピック選手とリモート交流、日本人パラリンピック選手とリモート交流（夢につながる話 資料 3） ・コロナ禍のピンチをチャンスに、無言給食時の手話活用で地域人材活用（無言給食で手話を 資料 4） 考え方の転換を図り、ピンチをチャンスに・・・目標達成のためのねばり強さを育成	
活動の成果：○・・・「自ら」の取組 この 1 年の成果 ◎・・・「夢」の取組 この 3 年間の成果 ○令和 2 年度大分県学力調査質問紙の回答における亀川小と全国との比較（表 2） 「夢」・全国値 59.3%、亀川小学校 78.1%・・・設問「夢や目標がありますか」で「ある」と答える 「自ら」・全国値 70.7%、亀川小学校 84.4%・・・設問「自分から勉強しますか」の肯定率 ○職員室通信は 30 号まで発信（9 月末時点）「自学のすすめ」シリーズは 18 号まで発信。自学ノートの内容に変化があった。自ら学び考え、保護者の支援を受け実践する子が出てきた。 ・コロナ禍のマスクについて調べた子（資料 5）保護者の支援を受け自学を実践で表した子（資料 6） ◎学力が大幅に向上。学力調査（全国を基準）ですべての学年・教科で全国平均を 6.9 ポイント上回まった。経年比較で全国学テは過去三年で全国平均との差が－7.7→＋2.3→＋3.8 県学力状況調査の全国平均との差は、＋0.6→＋3.5→＋7.9 と年々向上している。付帯効果として、不登校が居なくなった。	
アピールポイント（アイデアや工夫）：夢や希望、目標を持てる子が増えたこと。そして、自ら学ぶ子が増えた。その結果、全国調査の学力が大幅に向上したこと。 （1）コロナ禍で浮き彫りになった喫緊の課題を学校教育目標に位置付けた。 （2）教職員・保護者・地域の目標の共有の工夫をし、それをそれぞれの教育目標達成と結びつけたこと。 （3）地域人材の活用を学校の教育目標達成のために絞り込んだこと（カリキュラムマネジメント）	

資料1 本校の喫緊の課題 休校中の保護者アンケートから見た課題と令和2年度の学校の教育目標（令和2年度3月）

課題1 自ら学ぶ姿勢の欠如（主体性がない）

（休校中の保護者オンラインアンケートの記述より）

・なかなか学校のように時間割りを立てて自分から勉強する事ができない。・自分から進んで勉強をしない。など

学校の教育目標 キーワード 「夢」・「自ら」

夢を持ち、自ら学び続ける子の育成

めざす子ども……夢・目標を持つ子、自ら学ぶ子

図1 休校時のHPの「自学のすすめ」シリーズ



表1 学校の教育目標・重点を共有する教職員意識調査

1、亀川小学校の教育目標・重点を理解していますか（覚えていますか）	5月	6月	7月	9月
1理解していない	0%	0%	0%	0%
2あまり理解していない	13%	0%	0%	0%
3だいたい理解している	50%	39%	39%	28%
4よく理解している	37%	61%	61%	72%
2、亀川小学校の学校の教育目標・めざす児童像を意識して教育活動を行っていますか				
1意識していない	0%	0%	0%	0%
2あまり意識していない	12%	0%	0%	0%
3やや意識している	34%	30%	33%	22%
4よく意識している	55%	70%	67%	78%

写真1 教育目標の地域との共有をめざした啓発チラシ

（亀川地区6000世帯全戸配布）



資料2 大分合同新聞記事「夢を語れ」講演会



資料3 NHKTV放映（代表選手とリモート交流）



資料4 大分合同新聞記事（手話活用で人材活用）



資料5 コロナについて調べた自学ノート



写真2 自学ノートを推進する掲示物



資料6 大分合同新聞記事（全校のマスクを作成）



写真3 課題の共有を目指す職員室通信



表2 成果令和2年度大分県学力定着状況調査の質問紙における全国との比較

表2① 「あなたには夢や目標がありますか」設問

選択肢	はっきりした目標がある	いっおうある	思いつかない	まったくない	肯定率
全国	59.3	28	8.5	3.5	87.3
県	56.3	29.8	9.8	4	86.1
亀川小	78.1	15.6	4.7	1.6	93.7

表2② 「あなたは自分から勉強しますか」設問

選択肢	いつもしている	どちらかといえはしている	どちらかといえはしていない	していない	肯定率
全国	36.6	34.1	21.5	7.4	70.7
県	35.4	42.2	16.5	5.7	77.6
亀川小	37.5	46.9	9.4	6.3	84.4

優 秀 賞	【学校名】 広島県呉市立広南中学校
	【活動名】 チーム広南で未来を創る ～開発的アプローチで資質・能力育成～
解決すべき課題： 1 生徒は、これまでの地域の方に感謝，貢献することに加え，共に何かを創り出したいと願っている。 2 教職員（管理職）は，問題解決アプローチ（PDCA）だけで学校づくりができるか違和感を抱いている。	
目標・方針： 1 目標（仮説）： 開発的アプローチの手法を用いて，学校の良さを生かして夢を持ち挑戦する場を設定し組織的に実践することで，生徒に未来を創る資質・能力を育成することができるであろう。 2 方針： 目的に沿って，問題解決アプローチ（PDCA）と開発的アプローチ（DDDD）のどちらを手段にして取り組むか方向性を持つ。未来志向の取組（挑戦）には，開発的アプローチを用いる。（図 1）	
活動内容： 1 生徒会活動：新生徒会の目標設定や年間計画は，夢を持ち創造的な活動にしたい。そこで，開発的アプローチ（DDDD）により取組を進めた。 Discover の本校生徒会の伝統である「相手を大切にする礼節」を受け継ぎながら， Dream の新型コロナウイルス感染症対策の中でも自分たちが学校や地域で実践できると志を描きスローガンを「私たちには未来を変える力がある」とした。 Design では各委員会の具体的な取組を立案し，生徒総会で提案した。 Destiny では，コロナの中でも地域を元気にしたいという志を立てた文化活動発表会を成功させ，その後資質・能力の振り返りを行い自己調整した。また，各委員会は，新型コロナウイルス感染症対策のために問題解決アプローチ（PDCA）により計画，実践，検証，改善を行った。（図 2） 2 総合的な学習の時間の取組＋1 アクション：開発的アプローチで，3 学年は創作劇で未来貢献するという伝統を引き継ぎながら，世界と故里で行動できる国際人としての資質を身に付けたいという目標を持ち，創作劇「もくりんピック 2020～世界の人とつながろう～」を創りあげ文化活動発表会で披露した。（図 3） 3 特色ある学校づくり：学園教育目標や資質・能力の設定など創造的な学校を創るためには，課題を改善する問題解決アプローチだけでなく，学校の強みを伸ばす開発的アプローチが効果的であった。（図 4）	
活動の成果： ○ 生徒会活動については，新型コロナウイルス感染症対策の中においても，新生徒会の目標設定は未来志向となり創造的な活動を行っている。また，その活動過程で資質・能力も育成されてきている。また，コロナで例年通りの文化活動発表会ができない中でも，コロナバージョンで柔軟に形を変えて実施することができた。 ○ 特色ある学校づくり：学園教育目標「未来を創る」や資質・能力の設定は，開発的アプローチにより設定されたものであり，今後の教育活動も，地域と共にある学校という核となる伝統を受け継ぎながら，カリキュラム・マネジメントにより新たな取組に更新されている。	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ・未来志向で，創造的な教育活動を実践するには，開発的アプローチ（DDDD）が効果的である。 ・新学習指導要領で求める「社会に開かれた教育課程」においても，地域と協働して開発的アプローチ（DDDD）で取り組むことで，地域の良さを生かした夢のある取組が可能となる。 ・危機管理やサービスなどの問題を解決していくには，問題解決アプローチ（PDCA）が効果的である。	

【課題意識】

私たちも地域の方と一緒に何か創り出したいなあ…（生徒）

私たちのできていないことを解決することも大切だけど、もっと創造的なことにも挑戦したい！（生徒会執行部）

総合的な学習の時間をもっと自分らしさや学年らしさを生かして+1アクションしたい！（教職員）

学校の核を伸ばす特色ある学校づくりには、PDCAの問題解決の手法だけでは、難しさを感じるなあ…（管理職）

【考え方】（図1）問題解決アプローチ（PDCA）と開発的アプローチ（DDDD）

問題解決アプローチと開発的アプローチ

問題解決アプローチ（PDCA） Negative Thinking

- 差し迫ったニーズや問題の認識
- 原因の分析
- 問題・課題の克服
- 対応策

組織とは解決されるべき問題体である

熊田孝幸「第13章 学校の組織開発」（熊田清昭編『学校改善マネジメント』2016年226頁より）

開発的アプローチ（DDDD） Positive Thinking

- 「何が」ベストであるかを探索して価値付ける
- 「どうなるか」を思い描く
- 「どうあるべきか」について対話を行う
- 「何が」ベストであるかを探索して価値付ける

組織とは歓迎されるべきミステリー体である

開発的アプローチ（DDDD）

Discover

過去や現状における成功体験などから組織の価値や強みを見出す。

Dream

組織や個人の持つ長所や内在する可能性をもとに、組織の理想像・ビジョンを描く。

Design

その理想像やビジョンを具現化させ、組織の設計をする。

Destiny

その理想像に向けて取組改革を実践し、持続的に取り組む。

令和元年度第3回副校長・教頭等研修 講義題「学校組織マネジメント」中部学院大学 教授 篠原清昭

【実践】開発的アプローチ（DDDD）で取り組む実践

（図2）生徒会活動

（図3）総合的な学習の時間（3年 世界の人とつながろう）

生徒会活動（執行部による本年度のテーマ）

1. Discover(生徒会の価値を見出す)
2. Dream(理想像・ビジョンを描く)



3. Design(設計)
4. Destiny(持続的に取り組む)

総合的な学習の時間のデザイン（3学年）



（図4）学校づくり（学園教育目標と資質・能力の設定）

【成果と課題】

特色ある教育活動（学園教育目標と資質・能力）

1. Discover(地域とともにある学校)
2. Dream(「未来を創る」生徒の育成)



○学校の核となる特色ある学校づくりを目指すためには、開発的アプローチ（DDDD）が効果的である。

○目的によって、開発的アプローチ（DDDD）と問題解決アプローチ（PDCA）を使い分けると効果的である。

●今回は新型コロナウイルス感染症対策の中でカリキュラムが進まず、挑戦心などの資質・能力の高まりについて、データをもとにして検証するまでには至らなかった。

優 秀 賞	【学校名】 島根県知夫村立知夫小中学校
	【活動名】 学びがつくる三方よし ～社会に開かれた総合的な学習の時間～
解決すべき課題：人口 640 人の離島唯一の学校(小中一貫校)とその地域を取り巻く課題 ● 15 歳で島を出る(=自立が早い)子どもが多く、卒業までに、学びに向かう力や人間性を高める必要性が高い(子どもの課題・保護者の願い)→卒業後島を出た子ども H29 67% H30 70% R1 83% ● 校内に閉じ、現実味のない提案で小学生と中学生との差が分かりにくい発表内容(学校・教職員の課題) ● 地域資源を活かしきれず、総合的な学習の時間の授業設計に例年苦しむ教職員(学校・教職員の課題) ● 愛を持って子どもを大切にすることが、関係性の固定化により積極的変化が起こりにくい地域性(地域の課題)	
目標・方針：学校の出口=中学 3 年生の総合的な学習の時間改革とそこに向かう系統的カリキュラム改革 STEP1：中学 3 年生の総合的な学習の時間の見直し・改善 (H30) STEP2：中学 3 年生の総合的な学習の時間の仕組み化・安定運用 (H30～) STEP3：中学 3 年生に向けた、小中 9 年間の系統的なカリキュラムの改善・運用 (H30～)	
活動内容：※活動の流れは、右頁①～⑪参照 STEP1：リアルな地域課題を題材に、当事者の大人(地域・行政)と学びをつくる伴走者(教員・コーディネーター)の大人と共に解決まで実践するチーム PBL(Project Based Learning)を開始 STEP2：チーム PBL の活動の流れ(※)作成・実行(プロジェクト企画～活動終了後の振り返りまで) STEP3：小中 9 年間で 4 期(入門期・前期・中期・後期)に区分けし、カリキュラムを改善・運用	
活動の成果：※事例(エンディングノート開発プロジェクト)は、右頁参照 ● 子どもについた力 ((1)アンケート調査→1 項目あたりの 5 段階評価平均の変化(2)全国学力調査引用) (1)地域理解力：前 2.6-後 4.4・学習指導要領の力：前 2.3-後 4.3・社会人基礎力：前 2.9-後 4.3 (2)「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」→とてもそう思う H29 33.3%→R1 66.7% 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」→とてもそう思う H29 11.1%→R1 50% ● 入門～中期-校内発表会・後期(中 2)-子ども議会・(中 3)-成果発表会に人口の <u>10～15%が来場</u> ● 授業によって実現した地域の課題解決数/プロジェクト数 <u>5/5=100%</u> R2 年度 3 プロジェクト実施中 →島の祭りプロデュース(成果:出店数増加・会場やステージデザインを考え、実行)・知夫里定食開発(成果:ホテルのランチメニューに採用)・野菜生産者獲得(成果:給食野菜提供者が倍増)・ふるさと納税返礼品開発(成果:新たな返礼品として「お墓掃除サービス」を開発)・エンディングノート開発(延 9 冊・12 冊目作成中 ※)	
アピールポイント(アイディアや工夫)：離島中山間地域特有の「少人数」を逆手にとった設計・体制 ● 大人と協働しながら中学生自らが実践し、試行錯誤しながら目標達成(=地域の課題解決)をすることで、強烈な成功体験(=達成感)と深い学びを得、学びに向かう力と人間性が育まれている。 ● それまで担任が一人で抱えていた授業設計・進行を、学校(教員)・教育委員会(コーディネーター)・地域(課題当事者)の三位一体の体制で行っている(一人→チーム)。※右図 ● 授業設計・運営にいきいきする教員の姿、異動後に異動先でも力をいれる教員の姿。 ● 手をつけたくてもつけられずにいた地域課題について、生徒が関わることで解決への動きが起こった。	

「地域課題解決実践での学びがつくる三方よし～だんだん物語(エンディングノート開発)プロジェクト編～」

プロジェクトのはじまり：村役場の福祉課・診療所・福祉施設の福祉関係者で行われる高齢者サポート会議で、高齢者によりよい人生を、と「知夫村版エンディングノート」をつくる話が出ていた。そんな時、教職員が当事者の保健師さんにこの話を聞き、中学3年生のプロジェクトとして、知夫村版エンディングノート(だんだん物語)と一緒にづくっていくことになった。



①オリエンテーション by 保健師

真正性：真剣な場→課題の重要性・深刻さを当事者から伝える。

「対象の高齢者の人生に向き合い、その人だけの1冊のアルバムにまとめたエンディングノートをつくりまわす。ぜひ、皆さんの力を貸してほしいです。一緒にやってくれませんか？」

学習を通しての
想い・動き・変容

- 生徒(中学3年生)
- 伴走者(教育関係者)
- 当事者(地域・行政)

②チーム結成・目標決め



主体性・モチベーションを高める目標設定

「お渡しした時に、対象者さんが涙を流すものをつくろう!!」



③初訪問

生徒が失敗する前提で見守る。
生徒の様子を見て、課題を明らかにする。

「うまく話がつかない...そもそも高齢者と話したことがあまりない...」

⑤再訪問(何度も通う)

生徒に問いかけ「大切な想いは何だろう？」

昔の写真を見ながら、対象者がどんな想いで人生を歩んできたのか、問いかけ対話する。
だんだんと、会話が弾むようになってくる。



④福祉施設で話す練習

初訪問時、コミュニケーションの取り方について課題が多かったため、福祉施設に訪問し、練習することを当事者と計画。前回の訪問を振り返り、課題を念頭において、コミュニケーションをとるよう促す。

繰り返す



⑥編集(人生を20ページに納める)

得た情報をまとめ、自分らしく表現する。

「自分らしく表現することができない。」

「“あのうらしさ”自分らしさとは...？」

当事者(地域)×生徒(子ども)×伴走者(教育関係者)

大人の本気と子どもの本気の相乗効果

大人(当事者)の本気の姿を見て子どもが本気に。その姿を見てさらに大人(当事者・伴走者)が本気に。それによって、さらに生徒の主体性が増していく。



⑦中間発表(出資者の福祉課)

担当者より「これ、アルバムと何が違うの？」とダメ出しをもらう。
社会の現実を知り、さらに質をあげる仕掛けを作る。



⑧完成

最終ページは、生徒が自分らしく工夫。家族から対象者へ・対象者から家族へのメッセージを入れる。絵が好きな対象者には似顔絵を入れるなどして表現した。

⑨振り返り(1)

⑨振り返り(1)

自分自身も何を学んだかを考える。

制作プロセスでの学びについて振り返ること、自分の強みや弱みに気づき、さらに成長するために懇談会での大人への質問を準備する。

- ・ついた力:「高齢者の方と話す力」理由:「高齢者と話すときのマナーを意識しなくてもできるようになり、会話が弾んだから。」
- ・足りない力:「いろいろな視点で考える力」理由:「自信があったが、ダメ出しをもらって、対象者さんの視点で考えられていないと思ったから。」
- ・大人へ質問:「どうすれば相手の気持ちを考えられるのか?この活動で身についた力は将来どんな所で役立つのか?」



⑩成果発表会・贈呈式・懇談会



涙の贈呈式

当事者「エンディングノートとは、その人の人生を深く理解することで、最期をどう送りたいかという想いに家族が寄り添うことなんだと、私自身が学びました。また、生徒を見ていて、これだったらこれからどんな困難があっても乗り越えていける!と確信しました。」

当事者(地域)×伴走者(教員)

- ・授業ごとに、当事者と打ち合わせをし、生徒の想いや考えを尊重し、主体性を担保しながら、目標達成に向けてどう関わるかを考えた。(教員)
- ・目標や自分の役割関わり方を確認し、授業に臨めた。先生の熱意で授業に行きたくなくなった。(当事者)



・活動の満足度→100%

・後輩へのメッセージ

「たくさん失敗すると思うけど、そこで諦めるのではなく、最後まで全力を出して頑張ってください。そうしたら、達成感が得られると思います。」

担任の気づき「総合的な学習の時間で生徒にこんなにも力がつくんだ!と思いました。振り返りシートを書く手が止まらない生徒を見て、この学習での達成感や充実感が伝わってきました。最適な目標を見つけ、そこに向かって大人と共に実践することが価値だと思います。」

高齢者の人生が進路に影響した生徒、卒業して島外に進学した生徒が対象者のところに遊びに行っている姿も見える。

優 秀 賞	【学校名】 静岡県浜松市立芳川北小学校
	【活動名】 つながる学校図書館 ～多機能化による開かれた学びへ～
解決すべき課題： 文部科学省の「これからの学校図書館活用の在り方等について」や研究校の実態調査、浜松市学校図書館部アンケート、公立図書館職員へのインタビューから、次のような課題があること明らかとなった。 ① 学校図書館に関わる人々（教員・学校司書・ボランティア等）の取組のビジョンが共有できていないこと。 ② 学校図書館活用の有用性が伝わっていないということ。 ③ 学校図書館の業務がルーティンワークとなる傾向があること。 チームとして、組織的な取組の中で学校図書館との距離を近づけていくことが求められる。	
目標・方針： 学校図書館の課題を受け、学校図書館に関わる人々がプロジェクトを通してつながることで、チームとしてのビジョンを共有し、様々なアイデアを具体化していくことができるように、「つながる学校図書館プロジェクト」を構想。プロジェクトを進めるにあたっては、「<u>学校は、大人になるための準備期間。つながりの中で子供たちを育み、子供たちが人生は楽しく、世の中は素敵な大人がたくさんいて、世界が広がっていることを学ぶ場に。</u>」という取組のビジョンを共有。学校図書館に関わる人々がエンゲージメントを形成、プロジェクトを通してつながり、様々なアイデアを具体化していくことができるように多機能化を図る中で、開かれた学びの場を実現する。（図1・2）	
活動内容：学校図書館がより身近な存在となるように、三つの取組を連動させた。（図3） A. 人や本に出会う「ブックカフェ」 学校図書館が学びの拠点として、人や本、様々な世界とつながるツール。地域の人材を活用し、福祉や芸術など多彩な分野で活躍する人を学校に招き、ワークショップを行い、それに関連する本を紹介することを通して、子供たちの知的好奇心を高めたり、将来の自分の姿をイメージしたりすることにつなげる。 B. プラットフォームとしての「わくわくライブラリー」 掲示を通して本や人をつなぐボード。学校図書館での取組が可視化され、掲示が成長し、つながっていくプラットフォームのような役割を果たすことを目指す。 C. 学習と本をつなげる「動く図書館」 学校司書やボランティアにより学習に必要な本が廊下が届くシステム。「学びのマップ」を作成し6年間の系統性を踏まえ年間の学校のカリキュラムを可視化、共有することで見通しをもって、子供たちの資質・能力を育てていくことにつなげる。教育活動の全体像を可視化、図書の活用や地域人材活用で授業と連携。	
活動の成果：成果としては次の三点が挙げられる。（図4・図5） ① 学校図書館が人をつなげ、学校図書館との距離が近づいたこと。 ② 学校図書館が本や人とつながる場へと空間としても変容したこと。 ③ 学校図書館が様々なアイデアで成長し続けていること。 ※ラッキースター来館者調査や貸出冊数の増加、ブックカフェ参加人数等からより成長する図書館へと変容。	

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、プロジェクトを構想。取組を連動させ、システムやボランティアの確立を図ることで、学校図書館を足掛かりに「チーム学校」としての連携の輪が広がったこと。
- 図書館・地域人材活用の視点も取り入れた「学びのマップ」を作成し、カリキュラム・マネジメントの視点から、教育活動を展望・共有することで、教育活動を推進するとともに、キャリア教育にもつなげていること。
- 学校図書館が教育課程を支援する機関として、地域や人、様々な世界とつながる「開かれた学び」を実現したこと。新聞にも取り上げていただき、取組が学校の文化として根付いてきていること。（図6）



優 秀 賞	【学校名】 熊本大学教育学部附属小学校
	【活動名】 どんな時も子供が真ん中！ ～休校中も子供を伸ばし続ける学校に～
解決すべき課題： 休校期間における①児童の豊かな学びの保障，②児童の生活リズムや体力の維持，学習習慣の確立，③保護者の負担を軽減するサポート体制構築（困り感の早期把握・早期解消），④「3密」回避のための ICT 活用による教職員間の情報共有及びより実効性の高い研究推進システムの構築	
目標・方針： 1 目標 産学官・保護者連携により子供の豊かな学びを進め子供のための実践研究を推進する 2 方針 ①産学官連携により蓄積した ICT 技術を駆使しハイブリッド型学習支援・研究体制を構築する ②休校中の取組全容をタイムラインで整理し視覚化するとともに，諸アンケート評価分析結果を踏まえ取組の成果と課題を精査し，より実効性の高いパッケージシステムづくりに繋げる ③取組の検証結果等について報告書にまとめ公表することにより，地域貢献を果たす ※ 評価指標：児童・保護者アンケート等（評価・分析は熊本大学大学院教育学研究科研究室による）	
活動内容： 取組の全容をタイムラインで分かりやすく報告書に整理し，学校ホームページで公表。 1 児童の豊かな学びの保障： Zoom＋授業動画配信＋ロイロノート＋アナログ教材のハイブリッド型家庭学習システム：先行検証学級を抽出し、全校で実施⇒4～5月430本以上授業動画配信。 ＊ロイロノート、電話連絡、分散登校日での丁寧なフォローアップを学校総体として実施。 2 児童の生活リズムや体力の維持，学習習慣の確立： ①毎朝定時の健康観察カード配信，Zoomによる朝の会の実施（4年生以上），学習開始時刻の設定，学習計画表・生活記録表・ICT関連手順書等をファイリングし事前配付。②教職大学院と連携した運動動画配信，③学校再開後：諸アンケート分析に基づく心身のケアの充実（全学級：スクールカウンセラーによるストレスマネジメント教室・三者教育相談会・ニーズに応じた個別相談会） 3 保護者の負担を軽減するサポート体制構築： 毎週月曜全戸メールアンケート（ICT環境・健康状態・困り感把握）⇒即日対応。サポート動画配信。毎週金曜 PTA 代表者 Zoom 会議開催。 4 ICT 活用による教職員間の情報共有及び実践的研究維持のためのシステム構築： ①Zoom や Microsoft Teams のよさを活かした情報共有システム、校内外研修システムの構築 ②ICT 活用による働き方改革の推進、在宅勤務管理、実情に応じた柔軟な校務分掌の再編成	
活動の成果： ○備忘録としての報告書は，ジャンル毎に整理した活用度の高いサンプルパッケージ（タイムラインパッケージ、ヘルスサポートパッケージなど全6パッケージ）づくりに繋がった。 ○児童の豊かな学びの保障⇒児童アンケート：オンライン授業への非常に高い満足度 ※学年チームで授業動画を作成・配信し，教職員が相互に見合うことにより，若手教職員の授業の質が向上 ○児童の心身のケアの充実⇒ストレス減，不登校の未然防止・解消，学校生活への滑らかな移行 ○保護者サポート体制の充実⇒全 PTA からの意見集約（メールアンケート）：高評価	

○ICTを活用した研究の推進⇒他校からの校内研修講師依頼の増加、夏のオンライン実践研修会事前登録者 650 人（前年度比 220%↑）、休校中も YouTube 各教科プレゼン動画で研究推進

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ハイブリッド型学習支援は、緊急時における教育の質を担保し、児童の心身の安定に繋がった。
- 児童支援や心身のケアの充実は、学校生活への順応力を高め不登校の未然防止・解消に繋がった。
- 実情に応じた柔軟な組織編成により、教職員一人一人の知識やスキルをフレームワークづくりに上手く転用し必要な手立てをタイムリーに行うことができた。教職員の意識や指導のベクトルが揃った。



**審査委員
特 別 賞**

【学校名】 香川県高松市立鶴尾小学校

【活動名】 **感染症対策時の子ども支援
～コロナ禍にココロ繋げるお便り交換～**

解決すべき課題： 感染症対策に伴う臨時休業中、児童の心と学力をどう支えていくのか。

オンライン学習システムを構築できなくても、「不要不急の外出自粛」が求められる状況下にあっても、今、教員にできる児童の心と学力を支える方法を創出する。

目標・方針： 担任からの手書きメッセージや学習課題を家庭へポストイングし、郵便葉書で返事を求めるシステムを整えることで、児童に直接会えなくても、心を繋げて児童を支えていく。

活動内容： **3プラス1のお便り交換**【図1】

教員が、児童の家庭ポストに手書きメッセージと学習課題【表1】、さらに、未使用葉書を届け（ポストイング）、児童は届いた葉書に自分の思いや課題に対する回答を書いて投函することを、1週間に1回程度、臨時休業期間中繰り返す「お便り交換」を実施する。【写真1】

また活動継続のため、郵便葉書（書き損じ葉書等）の寄付を保護者や地域住民に求める。【資料1】

実施日等	テーマ	児童からのお便りの内容
初 回 4/21	子どもの「心を支える」	担任からの手書きメッセージに対する、児童からの心メッセージの回答 → 担任はその都度返信
2回目 4/28	子どもの「学力も支える」	心メッセージとともに、学習課題に対する回答
3回目 5/11	子ども間の「心をつなぐ」	心メッセージとともに、クラス課題に対する回答
	プラス1 子どもの「元気を地域に広げる」	児童が、担任以外の「大切な人」へのメッセージを往復葉書に書いて投函する、新たなお便り交換
4回目 5/18	子どもに「会って声をかける」	（担任による家庭訪問と手書きメッセージ渡し）

活動の成果：

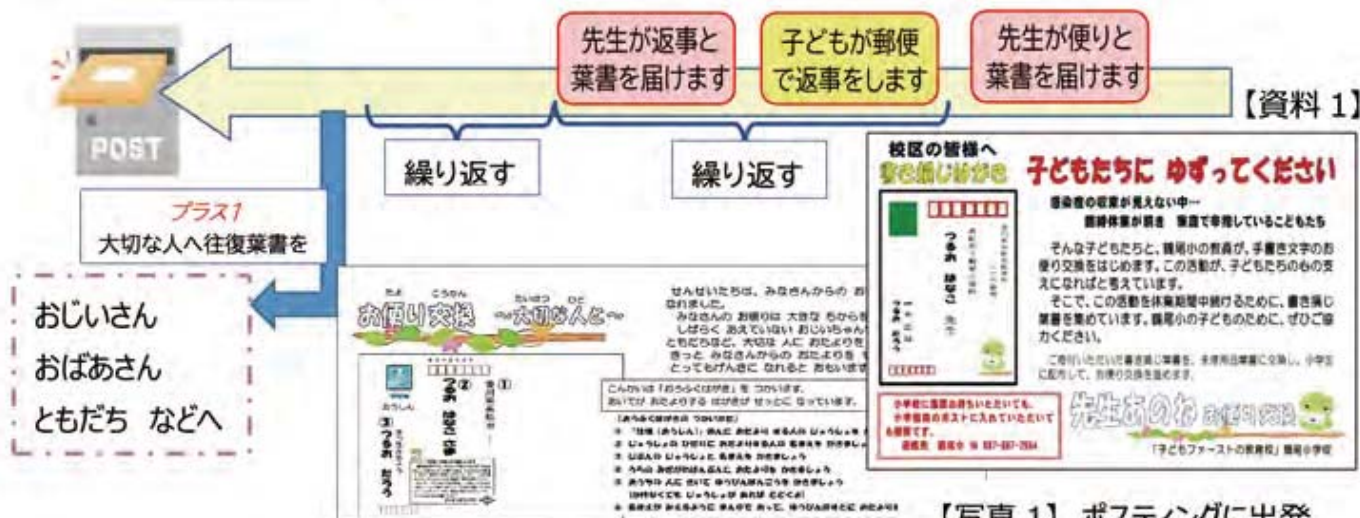
- ・ 家庭訪問時の保護者からの聞き取りでは、児童が、自分が出した葉書の返事がくる1週間後の「お便り交換」の日を、心待ちにしていた様子を知ることができた。手書きならではの温かみのある交流は、本来年度初めに行われるべき児童と担任の関係構築の一助となった。【資料2】
- ・ 返事のない児童は、課題を抱えていること等を想定して、担任からの電話連絡等を密にすることができた。
- ・ ポスティング時に学習課題を回収することで、児童の家庭学習状況を担任が把握することができた。
- ・ 子どもからの葉書メッセージで担任が元気づけられたことから、地域に向けたプラス1の活動を創出できた。
- ・ 感染症不安の中にあっても出席率を回復させ、5・6月に昨年度同程度の数値を維持できた。【資料3】

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・ 教員による学習課題のポストイングは、不要な外出ではないと、感染症対策時の初期に判断した。
- ・ マスコミで紹介されることで、学校に対する大きな信頼と校区内外からの協力を得られた。（寄付葉書 3600 枚）
- ・ オンライン授業の必要性が求められる中であっても、手書き文字による交流活動にこだわった。
- ・ 社会不安の中にあって、子どものもつ明るさを地域に広げ、その成果を自己効力感の向上に繋げた。

【図1】

鶴尾小 お便り交換はじめます



【表1】 葉書に回答を求めた担任からの課題例

1年	自分の名前の文字を色ぬりしよう
2年	読んだ本の紹介カードを作ろう
3年	自分のがんばりを友だちに知らせよう
4年	クイズ「先生からのちょうせん状」
5年	みんなへのメッセージを書こう
6年	感染症差別について考えよう



児童と先生 お便り交換
鶴尾小、週1で心のケア

鶴尾小の児童と先生が、週1で心のケアを続ける。児童は、先生からのメッセージや、自分の気持ちを紙に書き出し、先生に届ける。先生は、児童の気持ちを理解し、励まし、サポートする。この活動は、児童の心のケアに大きく貢献している。

【四国新聞 2020年4月22日付】

先生あつね お便り交換 第3弾

今回のテーマは...
『5年1組のみんなへのメッセージ』です。

今までのお手紙の中で、「お手紙いそがしくてね、先生も大変に苦しいよ」というお手紙がいくつかありました。そこで、今回は、みんなのメッセージを、先生に届けてほしいです。みんなの気持ちを、先生に届けてほしいです。

【新聞記事と地域からの応援メッセージ】

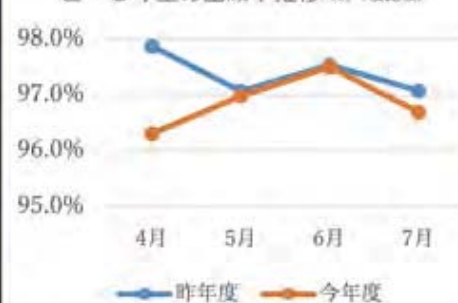


【資料2】



【資料3】

2～6年生の出席率推移（昨年度比較）



審査委員 特 別 賞	【学校名】 岩手県盛岡市立桜城小学校
	【活動名】 みんなで情報モラル教育 ～学校・児童会・家庭が一体となって～
解決すべき課題： 近年のＳＮＳの目まぐるしい進化に伴い、情報収集、他者とのつながりなどという点で、情報は欠かすことのできないものである。一方で悪ふざけ、悪口等、情報がもたらす新たな問題が出ているのも事実である。 本校も例外ではなく、ＳＮＳやゲーム内でのトラブル、利用時間の超過などが課題となっている。また、きまりを形式的な「縛り」ととらえ、守る意味まで考えが及ばない児童も見られる。本校では情報モラル教育を行ってはいるものの、指導が十分にされているとは言えない。児童や家庭の意識と、私たち教職員の意識を同時に変え、最終的には自分で正しく判断し、行動できる児童を育成していく必要があると考える。	
目標・方針： 学校、児童会、家庭が一体となって子どもを育成する幅を広げる情報モラル教育の推進	
活動内容：（図１） 学 校…カリキュラム・マネジメントの視点から情報モラル教育の６年間の系統性を見直し、道徳の時間に「心を磨く領域」の、特別活動の時間に「知恵を磨く領域」の指導を工夫して行う。 児童会…「さくらぎっ子メディアルール」を児童が作ることで、情報モラルを守ろうという意識の向上につなげる。 家 庭…盛岡市「５か条のスマホルール」の確認や学びフェストの結果の発信などを通して、保護者の意識の向上を図る。	
活動の成果： 学 校…学年の系統性を見直し、発達段階に合った情報モラルの指導を考えた。（図２）それを受けて、各学年で工夫を凝らしながら、「心を磨く領域」「知恵を磨く領域」の違いを意識した指導ができた。（図３は第５学年特別活動「コンピュータをウイルスから守ろう」の実践におけるカードゲーム） 児童会…５，６年生が中心となりゲームやインターネット利用の問題点を出し合う→「さくらぎっ子メディアルール」の原案作成→代表委員会での審議・決定→児童朝会での全校への周知と実施（図４）→児童自身が課題をとらえ、自ら考えたきまりだったため、全校で守ろうという意識が高まった。 家 庭…地区懇談会、学校だより等を通じて保護者へ発信することにより、家庭での情報モラル教育の取り組みを啓発することができた。（図５）	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ・情報モラル教育を、学年毎の発達段階に応じた児童の育成（横断的）、小学校６年間を通した児童の育成（縦断的）の両軸で広く捉えた実践である。 ・情報モラル＝その場の抑制指導ではなく、将来どのように使えば自分も相手も安心して安全に暮らすことができるのかまで見越した、長期的な情報モラル教育である。 ・学校だけの情報モラル教育に特化すると一方的な教師からの指導になりがちだが、児童自身にも課題を考えさせて自分たちできまりを作るようにした点、家庭にも協力を求めた点で子どもの育成する幅を広げている。	

【図2】

学年	心を育てる領域	知恵を育てる領域
	道徳	特別活動
1年	「みっちゅんのやくそく」 約束や決まりを守る	規則の尊重 a1-1a 「どうしようをおしえない」 知らない人に連絡先を教えない a1-2
2年	「みんなのニュース紙」 人の作ったものを大切にすることを	「やくそくまもってたのしいゲーム」 決められた利用の時間や約束を守る b1-1
3年	「エチケットかるた」 自分の情報や他人の情報を大切に 「家のパソコンで」 情報の取り扱いや知恵とやりとりを集合のパソコンでやりとりする	礼儀 b2-1 「正しい情報」 情報には真実のものがあることに気付く b2-2 規則の尊重 a2-1
4年	「カマキリ」 自分の情報や他人の情報を大切に 「おもしろければいいの」 情報にも、自然の権利があることを知り、尊重する	「ネットゲームにのめり込む」 健康のために利用時間を決め守る b2-1 「コンピュータをウイルスから守ろう」 情報の破壊や流出を防ぐ方法を知る b3-1
5年	「のりつけされた詩」 情報にも、自然の権利があることを知り、尊重する	正直、誠実 b3-1 「使いすぎを防ぐために」 健康を害するような行動を自覚する b3-1
6年	「会話のゆくえ」 他人や社会への影響を考えて行動する	a3-1

※資料名および学習材名の下に書いてある注釈は、「情報セキュリティ指導モデルカリキュラム（文部科学省）」から引用

コンピュータがウイルスに感染した人は座。
最後まで立っていたのは...



セキュリティソフトが
入っていて、アップ
デートもしていた人

たまたま
運がよかった人

セキュリティソフトやアップデートの重要性をゲームで気付かせる。

学校

- ◆道徳の時間、特別活動で
 - ・情報機器の節度ある使い方や相手を大切にすることの大切さを考える **情報モラル**
 - ・夢中になるものを見つける **好き・夢中・夢**
- ◆外部講師による講演体験

【情報のプラス面】
情報収集、興味、認め合い
つながり...



【情報のマイナス面】
悪ふざけ、悪口、犯罪、ゲー
ム病、ひきこもり...

児童会

児童会での話し合いの様子や決定した
きまりを、校報等で発信する。

家庭

- ◆「さくらぎっ子メディアルール」作り
 - ・正しい使い方を児童会が主体となって
決め、全校みんなを守る
 - ・いじめの防止につながる

- ◆盛岡市「5か条のスマホルール」の徹底
 - ・家庭のルール作り
 - ・フィルタリングの推進
- ◆学びフェストによる意識の向上



代表委員会での審議・決定



児童朝会での全校への周知

【図4】

さくらぎっ子メディアルール

- ①ゲームやスマホ、インターネット内でも思いや
りの心を持ち、悪口を書きこまない。仲間はず
れにしない。
- ②もっていない人を仲間外れにしない。

【図3】

君は、コンピュータを ウイルスから守ることができるか！？

- ① 将一人一枚カードを引く。下のカードのどれ
かが手札にいく。...
- ② カードの内容は、最後まで互道に自分からい
うにする。...
- ③ 左下の番号がサイコロの目が出た人は、その輪
席に座る。...
- ④ 最後にウイルスに感染したかどうかを総で確
定する。...

- ① サイコロで出た目の入りにウイルスを送信する。...
- ② サイコロで出た目の入りに最新のウイルスを送信
する。...
- ③ サイコロで出た目の入りに最新のウイルスを送信
する。...
- ④ サイコロで出た目の入りに最新のウイルスを送信
する。...
- ⑤ サイコロで出た目の入りに最新のウイルスを送信
する。...
- ⑥ サイコロで出た目の入りに最新のウイルスを送信
する。...
- ⑦ サイコロで出た目の入りに最新のウイルスを送信
する。...
- ⑧ サイコロで出た目の入りに最新のウイルスを送信
する。...
- ⑨ サイコロで出た目の入りに最新のウイルスを送信
する。...
- ⑩ サイコロで出た目の入りに最新のウイルスを送信
する。...

【図5】盛岡市「5か条のスマホルール」



審査委員 特 別 賞	【学校名】 宮城県仙台市立沖野小学校
	【活動名】 高め合い支え合う組織作り ～主体性と繋がりを育むPDCA改善～
解決すべき課題： Socirty5.0 のこれからの時代,子供たちに求められるのは新しいことを創造していく力であり,そのためには「主体性」が求められる。教員にも当然「 <u>主体性</u> 」を持って仕事に臨むことが求められているが,学校現場は常に忙しく,教員は目前のことだけに注力しがちである。学校全体の PDCA に対しても「誰かが立てた計画を流れのまま行い,時期がきたから評価する」と,受動的,客体的な関わりになる傾向がある。また, <u>教職員同士の関係性の希薄化</u> が進み,教職員各々の考えや思い（Plan）の交流,効果的な実践や反省点（DoやCheck）の共有化が効果的になされておらず, <u>学校の組織力が十分に高められていない</u> 。	
目標・方針： <u>学校 PDCA を改善することで,教員がつながりを深め主体的に活動できる組織を作る</u> 【目指す学校組織】 ○ 教職員一人一人が自校の課題や解決方法（取組）について<u>自分ごととして考え,語り合う組織</u> ○ 共通の目標に向かい,お互いの実践や課題を交流し,<u>高め合う組織</u> ○ 若手が中堅・ベテランを頼りにし,中堅・ベテランが若手を温かく育てる,<u>支え合う組織</u>	
活動内容： 学校 PDCA 改善のキーワード：「共有化」「語り合い・学び合い」 ①一人一人の教職員が自校の児童の実態を正確に捉えるために「<u>学校経営シート</u>」を活用する。…写真① ②①で個々が分析した実態と背景,設定した目指す児童像を共有するため「<u>チームトーク</u>」を行う。…写真② ③②の内容をチームリーダー自ら,保護者や学校評議員等に説明し,<u>外部とも共有化を図る</u>…写真③ ④目指す児童像を「<u>キャッチコピー</u>」化して,全教職員と児童と保護者にも浸透させる。…写真④ ⑤<u>ミニ研修会</u>を通してお互いの実践について情報交換したり学び合ったりする。…写真⑤ ⑥語りやすい雰囲気の<u>年代別ワークショップ</u>で,目標を意識した反省を実施する。…写真⑥ ⑦職員評価の期中面談の機会を利用し⑥の反省内容について具体的に取り組む働きかけを行う。	
活動の成果： ・全職員が「学校経営シート」をもとに,自ら実態分析をしたことで,<u>学校の課題を「自分ごと」として捉えられた</u>。 ・チームトークでお互いの分析を話し合ったことで<u>課題と目標の共有化を図れた</u>。 ・学校評議員会や学校経営説明会の場で説明し,課題と目標について<u>地域や保護者とも共有化を図れた</u>。 ・キャッチコピーの活用により,児童,教職員,保護者,地域への<u>目標の浸透が効果的に図れた</u>。（写真④） ・語り合う場を意図的に増やしたことで,職場内に<u>話しやすい,聞きやすい雰囲気</u>が生まれた。（図①） ・職員間交流を増やしたことや管理職のポジティブフィードバックが<u>自主性,協働性の向上に繋がった</u>。（図②） ・研修会の講師となったり,若手に頼られる機会が増えたりしたことで,<u>中堅・ベテラン教員の自主性を高められシヤワー効果に繋がった</u>。（図③）（『学校管理職が進める教員組織作り』河村茂雄氏 著を参照）	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ○ 教育委員会への提出や学校保健委員会,評議員会等の資料として作成していたデータを「学校経営シート」として整理し,全職員で分析し合う機会を設けることで<u>既存の仕事へ価値を付加し意欲向上を図った</u>。 ○ 年間を通した様々な場面で職員間が世代を超えて<u>語り合い,認め合うような場と機会</u>を用意した。 ○ 新しい組織や会議を立ち上げず,<u>既存の組織や機会</u>を活用し,多忙化に繋がらないようにした。	

課題

学校の組織力の向上

- 求められる主体性
- つながりの希薄化



まずは自分で分析して…



課題は「思いやりの心」の育成と「基礎学力の向上」が…

写真② 目指す児童像を共有化



お互いが考えた「目指す児童像」を語り合う

Plan の改善 2～3月

(写真①) 学校経営シート(自校の強み、課題を整理した表)の活用

	徳	知	体
強み			
課題			
R1 度の取組	徳について 仙台市生活状況調査の結果から分かる自校の児童の特徴を生徒指導部がまとめたデータ	知について 仙台市学力検査, 全国学力調査結果から分かる自校の児童の特徴を研究推進委員会がまとめたデータ	体について 運動能力調査, 健康診断, 給食に関する調査から分かる自校の児童の特徴を保健安全部がまとめたデータ
中間の反省の内容			
R2 度目指す児童像	徳	知	体
	上のデータを分析して,ここに自分が考える「目指す児童像」を記入する。		

写真③ 保護者・地域とも共有化

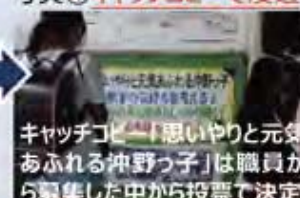


「目指す児童像」について学校評議員会で説明

目指す児童像のキャッチコピーを考えよう



写真④ キャッチコピーで浸透



キャッチコピー「思いやりと元気あふれる沖野っ子」は職員から募集した中から投票で決定

Do の改善 4月～

ミニ研修会によるOJT (写真⑤)



○講師は中堅・ベテラン教員

○毎月1回 職員会議の後 30分間

5月	2ヶ月遅れの学級開きはこうしよう
6月	コロナ禍でもできる心を育む音楽の授業
7月	思いやりを育む道徳の授業
9月	動画授業の作り方 ～コロナ第二波に備えて～
10月	構成的グループエンカウンターの実践

Check の改善 9月

年代別ワークショップで中間評価 (写真⑥)



忌憚なく意見を出す若手グループ



温かみのあるベテラングループの発表

学力向上は授業力向上から。先輩の先生の授業をもっと参観させて頂いて勉強したいね!

OJTを継続して引き出しを増やしていこう。何でも聞いてほしい。一緒に考えていこう。

Action の改善 10月

中間評価の内容について,期中面談で,各教員に具体的取組を考えさせ,ポジティブフィードバックして意欲付けを図る。

校長: 先輩教員の授業を気軽に参観したいとの意見がでていましたが,どう改善しましょう。

研究主任: 先生方の自信のある教科から見せて頂くように声掛けてみます。見どころ10分を参観させて頂く形でいいと思います。

校長: なるほど! いいアイデアですね!

成果

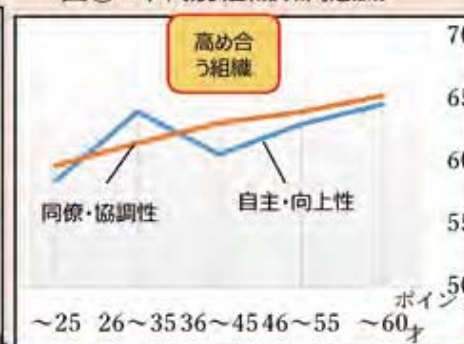
図① 職員室は相談しやすいか

とてもそう思う 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

図② 教員組織所属意識尺度



図③ 年代別組織所属意識



審査委員 特 別 賞	【学校名】 滋賀県高島市立安曇川中学校
	【活動名】 一点突破Webアンケート ～調査の効率化と業務改善の推進～
解決すべき課題： ・必要性や重要性を理解しつつも、教職員が「ムリ・ムダ・ムラ」を感じる業務や単純労働が発生しやすい。近年増え続ける調査やアンケートに関する業務に職員の疲労感や徒労感が高まっている。 ・経済基盤が弱い自治体の公立中学校における効果的な業務改善の手法を探る。	
目標・方針： ・タブレット端末と各種アプリの導入による授業改善と業務改善を図る。 ・web アンケート導入により、調査・アンケートのとりまとめや集計にかかる作業時間と作業手間を削減する。 ・各教科の学習活動やいじめ防止対策アンケートなどへの応用をすすめ、授業改善や生徒指導を推進する。 ・市域全体での効果的な波及を図り、市内小中学校や他業務での活用を推進する。	
活動内容： ①学校評価アンケート（教師、生徒、保護者向け）に Web アンケートアプリ（MS・Forms）を導入する。 ②いじめ防止対策アンケート（生徒向け、保護者向け）に Web アンケートを活用する。 ③校内職員研修で、教科の学習や意識調査に Web アンケートを活用する手法を共有し、応用を進める。 ④市教育委員会が実施する調査に、Web アンケート導入を要望する。 ⑤市内小中学校教頭研修会において、Web アンケートの導入に関する研修を推進する。	
活動の成果： ①Web アンケート導入により、教職員の疲労感や徒労感が軽減でき、業務へのモチベーションが上がった。 ②教職員が本来の業務に向き合う時間と心の余裕をもち、モチベーションを持続できた。 ③教職員と生徒が授業の取組を客観視できる機会が増え、主体的な学びの場づくりの契機となった。 ④アンケート調査の手順や効率的な分析手法が共有できたことにより、若手教員の授業研究に対する意欲が高まった。また、コロナ対応として、家庭でのオンライン学習や Web 環境の調査など、迅速に実施できた。 ⑤今年度末までにタブレット端末が 1 人 1 台配備予定となり、本校の教職員は心待ちにしている。	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ①授業改善に向けた iPad 整備に関連付けて、業務改善につながる Web アンケートの手法を探った。 ②市教育委員会により市内の教職員にマイクロソフトアカウントが設定され、Forms が活用できるようになった。 ③各種調査やアンケートなどを web で実施したことにより、教職員の単純労働の時間が削減できた。 ④市教育委員会指導主事や市内小中学校教頭と Web アンケートの有効性や手法を共有した。 ⑤モデルケースを周囲に紹介、啓発していくことで、学校内、学校間、市教委、それぞれの職域で Web アンケートの手法や活用法が認知された。市教育委員会や他の学校でも、Web アンケートが活用され始めた。 ⑥生徒が授業で web アンケートや web テストを作ることも想定し、授業改善のための研究を進めている。	

**審査委員
特別賞**

【学校名】 富山県高岡市立能町小学校

【活動名】 **コロナに負けない学校に！
～学校DX化で安心＆安全→信頼関係～**

解決すべき課題：新型コロナウイルス感染拡大により、保護者の感染リスクに関する学校生活への不安や、休校による学力低下への懸念が高まっている。学校では、休校中の授業の遅れを取り戻しつつ、新学習指導要領の目指す教育の実現に向けたカリキュラムマネジメントに奮闘している。

こんなときだからこそ、地域や保護者との信頼を深めることが必要と考え、ICT を活用した情報共有と業務の軽減を目指した学校 DX（デジタルトランスフォーメーション）化の取組を進めた。

目標・方針：①休校中：HP（ホームページ）や緊急メール等を通じて、学校の感染予防対策を明確に示し、それを着実に実行することで保護者の信頼を得る。②学校再開に向けて：子供たちを学校とつなぐ、温かいメッセージを発信する。③学校再開後：子供たちが感染予防を心掛けながら楽しい学校生活を築くことを支援し、いきいきと活動する姿を地域や保護者に発信する。④これらを通して、教師の危機対応力、情報発信力、授業力の向上を目指した研修会を行い、その取組や成果を HP やファイル共有を通して、市内の学校や地域に広く公開する。

活動内容：これまで、学校からの印刷資料の一斉配付に頼っていた家庭との連絡をモノの移動を伴わないデジタルに移行した。今後は緊急メールでの連絡がメインになることを保護者に周知し、加入率 100%を目指して緊急メールへの登録を促した。休校中の課題配付等の連絡をメール配信し、HP に誘導し、本校教諭による授業動画や校長を始めとした教職員からのメッセージを次々と発信していった。5 月末からの分散登校が決まった段階で各学年からのメッセージを動画配信し、子供たちの期待感を高めた。感染拡大防止策については HP 上で積極的に公開し、地域や保護者の安心感を醸成することに努めた。保護者の来校が難しい時期には HP 配信に加え、Zoom を活用した全校授業参観を行い、子供たちの活動の様子を伝えた。その成果と課題も HP で公開した。本市では、10 月に児童用と同じ型の GIGA 端末が担任分配付され、クラウドを使用することになっている。まずは教師が日常的に活用し、授業での活用につなげていきたい。

活動の成果：ICT 技術を使って情報を効率的に共有する手法を開発・活用

- ①緊急メール加入促進、オンライン健康観察…100%の加入率達成、Google フォーム活用による自動化
- ②授業動画配信、学校メッセージ…学校評価アンケートでの「学校が楽しいと言っている」92%
- ③Zoom 研修会→オンライン授業参観…保護者への事後アンケートで「次回も参加したい」92.6%
- ④Microsoft365 活用研修…まずは教師が使いこなす。クラウド職員室の構築を目指している。

アピールポイント（アイデアや工夫）：有効性の体験から利活用につなげる

- ①必要性を訴えるのではなく、便利・安心・簡単を体験してもらうことでネットワーク利活用を促進した。
- ②緊急メールから HP に誘導し、更新の活性化を行うことで HP を学校の情報センターに育てた。
- ③教師向けの Zoom 研修、保護者向けの練習用会議室の設置、クラウド活用研修等の研修を充実させ、オンライン授業参観を成功させるなど、情報を公開することで保護者の理解を得て、信頼関係を深めた。
- ④取組の成果について HP での発信や市内での資料共有を進め、学校 DX 化の推進に寄与している。

コロナに負けない学校に！



富山県高岡市立
能町小学校

学校DX化で安心＆安全→信頼関係

緊急メール活用

教育のDX化への第1歩。
家庭と学校がデジタルで
つながる。



高岡市立
能町小学校



ホームページ活性化

画像を生かした一覧性、直観
性、重要情報への接続性を高
める。

- ①情報共有手段として周知
- ②メールに概要とホームペ
ージへのリンクを記載し
相乗効果で有用性を感じ
てもらう。



- ①メール配信の内容を図解。
詳細に掲載
- ②コロナ禍の情報発信の重要性を
職員で共通理解→毎日更新
- ③コロナ休校中→分散登校中→通常
登校の各段階で情報発信を工夫

休校中

授業ビデオ制作

学校に来られない子供たち
の学びを保障
市内の先生方と協力分担

ビデオ編集マニュアル



市内全校に配布

1年生算数 かずをかぞえよう



教材配付案内

密を避ける教材の配布方法
についてメール→HP誘導



応援メッセージ配信

学校再開への期待と自主学
習継続への意欲向上



オンライン健康観察

Google フォーム活用の健
康観察システムを開発公表



分散登校中

感染予防対策紹介

子供たちが安全に生活する
様子を紹介



学校再開後

感染予防全校授業

感染を避けるためにできる
こと・心配なこと・気を付
けたいことを全校で話し合



学校の感染予防
対策に対する
保護者の理解
→信頼感・協力

オンライン授業参観

コロナ禍に負けず、子供た
ちがいきいきと活動する姿
を家庭に届ける

練習用 Zoom 会議室

オンライン授業参観 練習用会議室

これが見れば大丈夫です。
登録はできるだけ速くお願いします。
マイクとカメラはオフでお願いします。

高岡市立能町小学校

経験のない保護者
も安心して参加
トラブル未然防止



教員向け Zoom 研修会



会議室の予約
会議の始め方

Zoom 授業参観



次回も参加したい (92.6%)
遠方の祖父母も参加できたなど

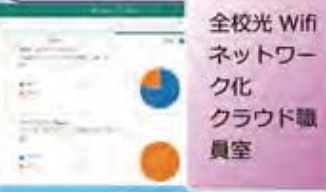
提案授業で発展

Zoom を使ってアメリカ
の先生に日本のよさを伝え
よう (外国語科)



学校DX化にむけて

Microsoft365 を活用した
クラウド職員室の実現に向
けた研修の開発



全校光 Wifi
ネットワー
ク化
クラウド職
員室

2019 年度 2020 年度
HP へのアクセス数増加 (1 日 43 名→135 名)
Google 検索「オンライン授業参観」1 位

審査委員 特別賞	【学校名】 福岡県北九州市立石峯中学校
	【活動名】 学力向上と学習習慣の定着 ～全校体制で取り組む学力向上大作戦～
解決すべき課題：授業改善と学力定着が切り離されて捉えられ、取組が教科担当任せになっている。 本校は、昨年度までの3年間、主体的・対話的で深い学びを実現すべく、授業改善に努めてきた。しかし、 ①学力が十分に定着していない生徒がいる②家庭学習の習慣がついていない生徒がいる③補充学習への取組状況が各教科担当教員任せで、頻度や方法に差があるといった課題が見られる。	
目標・方針：【目標】 全校体制で学力向上策に取り組み、学力向上と学習習慣の定着を図る。 ＜方針＞ ①学力向上の取組を、授業改善と補充学習の両輪で捉える。 ②教員・生徒の共通理解・共通行動のもと、全校体制で実施する。	
活動内容：①朝自習…毎朝10分プリント学習。1週間同教科。5週で国社数理英が一巡【資料1上】 ②放課後石峯タイム…毎日放課後10分、朝自習プリントの定着度を測るため同じ問題か類題に取り組む。合格ラインを設定し、合格は下校。不合格は再度同じ問題に挑戦【資料1下】 ③ステップアップノート（通称：SUN）…自学ノート。朝・放課後のプリントと同じ教科。イメージをもてるように、昇降口・廊下や学力向上通信に好事例を掲示【資料2①～③】 ④授業祭…生徒は、生徒会や各委員会で学習規律や家庭学習の目標を立てて実施【資料3】 教員は、授業スキル向上のための互見授業を実施【資料4】 ⑤放課後ひまわり学習塾…希望者向けに補充学習教室を毎日実施【資料5】	
活動の成果： ① 全校体制で学力向上策に取り組むことができた。 授業祭では、主体的・対話的で深い学びが授業で実現できるように、生徒は生徒会中心に目標を設定、教師は互見授業の設定を行うなど、学校全体で授業改善に取り組めた。補充学習では、全校体制で取り組む体制が構築できた。 ② 学力向上が図られた。 希望者対象のひまわり学習塾に、開催回数の半分以上参加した生徒の定期考査の偏差値が、前期中間（7月中旬）と前期期末（9月下旬）で比べると平均2.4ポイント上昇した。 ③ 学習習慣の定着が図られた。 毎日自主学習に取り組むことで、家庭で1時間以上学習する割合が昨年度1月37%から今年度7月66%に増加した。さらに、自分に合う学習方法を身に付けた姿も見られた。	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ① 学力向上に向けた全校体制の構築 補充学習の担当者と時間を明確にしたことで、全職員が輪番で行うことが可能となり、担任や教科担当の教材準備や学習指導の負担を軽減することができた。 ② 通常学級で学習に困り感をもつ生徒へ具体的な支援を実施 各種調査結果を基に生徒の実態を把握したことで、通常学級で学習に困り感をもつ生徒がクローズアップされ、「認知トレーニング（コグトレ）」の研究・導入などの支援策が推進された。 ③ ボトムアップで取組を推進したことによる人材育成 学力向上委員会のメンバーに、経験年数10年未満の若年者やミドルリーダーを任命し、課題と、それに対する取組をボトムアップで提案させた。生徒の現状を分析し、より効果的な方法を見いだすために意見を交わすことで、授業や補充学習を進める上でのポイントを学ぶことができ、人材育成につながった。	

【資料1】朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）

1. 朝自習プリント（上）

2. 放課後石峯タイムプリント（下）

3. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

4. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

5. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

6. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

7. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

8. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

9. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

10. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

11. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

12. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

13. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

14. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

15. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

16. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

17. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

18. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

19. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

20. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

21. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

22. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

23. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

24. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

25. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

26. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

27. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

28. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

29. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

30. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

31. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

32. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

33. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

34. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

35. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

36. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

37. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

38. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

39. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

40. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

41. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

42. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

43. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

44. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

45. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

46. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

47. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

48. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

49. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

50. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

51. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

52. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

53. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

54. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

55. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

56. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

57. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

58. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

59. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

60. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

61. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

62. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

63. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

64. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

65. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

66. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

67. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

68. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

69. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

70. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

71. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

72. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

73. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

74. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

75. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

76. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

77. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

78. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

79. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

80. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

81. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

82. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

83. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

84. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

85. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

86. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

87. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

88. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

89. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

90. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

91. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

92. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

93. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

94. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

95. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

96. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

97. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

98. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

99. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

100. 朝自習プリント（上）と、放課後石峯タイムプリント（下）の比較

【資料2】Step Up Note（SUN）
① SUNの表紙・裏表紙・中身（A4判冊子）

Step Up Note

継続は力なり

北九州市立石峯中学校

② 昇降口・廊下にSUNコーナーをつくり、好事例を価値付けて掲示

SUN corner in the hallway

③ ミドルリーダーが輪番で発行する学力向上通信で全校に発信

SUN SHINE

Step Up Note の取組

学力向上通信

【資料3】授業祭：生徒の取組

- 生徒会・各委員会で立てた目標
 - ・1分前着席・机、ロッカーの整頓
 - ・SUN提出状況 など
- 学級スローガン
 - ・各学級で考え教室に掲示し、意識化を図った。
- 取組結果のフィードバック
 - ・学級ごとの結果を伝達・表彰



【資料4】授業祭：教員の取組

- 互見授業…参観者は授業者へ感想を伝達。

SUN SHINE

互見授業

授業者への感想

【資料5】放課後ひまわり学習塾

- 毎日放課後1時間、希望者に補充学習実施。教員が1～2名輪番で指導。火・木は5名の学習指導員（市教委予算）来校。
- 認知トレーニング（コグトレ）を冒頭5分実施。
- つまずきにに応じた指導ができ、開催回数の半分以上出席した生徒の定期考査の偏差値が、平均2.4ポイント上昇した。

Himawari Learning Center

学年	科目	指導員	出席率	偏差値
1年	国語	①-②	4	4
2年	国語	①-②	4	4
3年	国語	①-②	4	4

NITS大賞 応募一覧

エントリーシートの内容をウェブサイトで見ることができます。ご参照ください。

https://www.nits.go.jp/education/grand_prize/report/004.html



No.	活 動 名	エントリー名
1	“いつか”を“いつも”に変える ～リスク管理をみんなで考える～	岡山県立瀬戸南高等学校
2	コロナに対抗する生徒支援 ～オンライン授業への果敢な挑戦～	福岡県春日市立春日東中学校
3	クラウドでオンライン授業 ～生徒のスマートフォンで学びを継続～	神奈川県立川崎北高等学校
4	感染症対策時の子ども支援 ～コロナ禍にココロ繋げるお便り交換～	香川県高松市立鶴尾小学校
5	教頭主軸の学校組織支援 ～組織分析による特別支援学校改革～	大分県立佐伯支援学校
6	やる気スイッチをON! ～小中一貫で行うキャリア教育～	福岡県飯塚市立幸袋中学校
7	感動が繋ぐオンライン学習 ～計量分析×カリマネ＝安心の214～	福岡県立戸畑高等学校
8	「授業力向上」プログラム ～人材育成に特化した学校経営～	広島県広島市立美鈴が丘中学校
9	三位一体! 三体小から発信 ～どんぐりピアノ絵本の発行を通して～	鹿児島県霧島市立三体小学校
10	全員でビジョンを共有 ～カリ・マネを通した学校づくり～	滋賀県草津市立高穂中学校
11	食杜北杜プロジェクト ～住み続けられるまちづくり実践～	山梨県立北杜高等学校
12	笑顔の奉仕活動は地域の宝 ～まごころの思いやりをありがとう～	茨城県立佐竹高等学校
13	地域と創るエネルギー教育 ～あきらめなければ夢は叶うを信じて～	大阪府八尾市立曙川小学校
14	めざせ! よりよい授業 ～生み出せ! 教材研究・準備の時間～	宮崎県高原町立後川内小学校
15	学校教育目標達成のために ～全教員で関わるワークショップ～	青森県立青森南高等学校
16	将来を見据えた学校事務 ～幅広い視野を意識した事務職員へ～	山口県岩国市立麻里布小学校
17	校内研修の充実を目指して ～自主研修組織「はつらつ塾」の運営～	愛媛県松山市立垣生小学校
18	学びを止めない学校づくり ～オンラインで結ぶ教師と子ども～	青森県青森市立古川中学校
19	魅力あふれる学校づくり ～学校、家庭、地域の連携を通して～	茨城県鹿嶋市立三笠小学校
20	3年先を見てつくる東部中 ～コロナ禍をきっかけに学校スリム化～	愛知県田原市立東部中学校
21	学びたい! に応えよう ～未来のリーダーが育つ竹の子の里～	徳島県阿波市立御所小学校
22	小野っ子健康プロジェクト ～3つの種を育みコツコツ健康づくり～	福岡県古賀市立小野小学校
23	MCTM(みちたま)計画 ～北九州市SDGs連携防災体験学習～	福岡県立小倉西高等学校
24	みまさか学指導法の開発 ～ICTによる授業とGOAL設定～	岡山県立林野高等学校
25	「つなぐ」プロジェクト ～夢のある須木での学びを開発する～	宮崎県小林市立須木小学校
26	業務改善の風を吹かせよう ～ポストコロナの業務改善の推進～	鹿児島県鹿児島市立中洲小学校
27	教師も学びを追体験! ～社会に開かれた教育課程の実践～	茨城県つくば市立秀峰筑波義務教育学校
28	民主的学校への多様性受容 ～特別支援教育経営を理念として～	東京都八王子市立四谷中学校
29	自治能力をもつ生徒の育成 ～未来を拓く力の創造を目指して～	福岡県福岡市立片江中学校
30	豊かな学びを目指して ～社会で生きる力を育てる教育活動～	茨城県鉾田市立旭北小学校
31	学校規模のPBIS ～ポジティブ行動支援で学校づくり～	岡山県浅口郡里庄町立里庄中学校
32	みんなで働き方改革! ～ゆとりで繋がる、繋げる～	北海道留萌市立緑丘小学校
33	アカデミックに創むる改革 ～未来の創り手若手教員の希望を育む～	石川県立輪島高等学校
34	「めぶく」プロジェクト ～高校生による前橋市活性化への提案～	群馬県前橋市立前橋高等学校
35	若手教員支援プロジェクト ～チーム教員としての意識を育む取組～	茨城県立高萩清松高等学校
36	学校文化の創造にむけて ～行事の再編と自主発信型研修～	京都府京都市立下京雅小学校
37	全要領分解・整理 ～的確な指導・明確なゴール～	東京都墨田区立第二寺島小学校
38	チームで行う教育課程編成 ～カリマネを生かした学校づくり～	北海道札幌市立北辰中学校
39	みんなで情報モラル教育 ～学校・児童会・家庭が一体となって～	岩手県盛岡市立桜城小学校
40	休校中のオンライン指導 ～再開後の改善を見据えて～	静岡県立御殿場南高等学校
41	特色ある学校づくり ～学校組織マネジメントを活用して～	秋田県井川町立井川義務教育学校
42	コロナ禍におけるICT ～活用! オンライン通信校内研修～	宇都宮大学共同教育学部附属小学校
43	共創力育成による学校改革 ～地域資源の活用と自己肯定感の育成～	岩手県立宮古北高等学校
44	共に高め合う子どもの育成 ～現職教育の実践をとおして～	福島県柳津町立西山小学校
45	学校家庭地域All月将館 ～どの児童も安心できる学校づくり～	宮城県涌谷町立月将館小学校
46	夢に向かってチャレンジ ～富士見スタイルのキャリア教育～	群馬県前橋市立富士見中学校
47	誰一人取り残さない学校に ～周りの皆を幸せにする力を磨く～	佐賀県佐賀市立城西中学校
48	校時表の改善を通して ～働き方改革&学力向上winwin～	鹿児島県いちき串木野市立旭小学校
49	道徳の評価についての研究 ～生徒を認め励ます授業・評価～	佐賀県小城市立小城中学校
50	自分から変化をつくる ～ベクトルを揃えて組織力向上!～	山口県周南市立岐山小学校
51	笑顔で子供の前に ～教師の自己肯定感を高める～	富山県入善町立入善小学校
52	主体性アップ! 校内研修 ～職員の授業力と参画意識の向上～	静岡県掛川市立西郷小学校

No.	活 動 名	エントリー名
53	生徒指導と自己有用感 ～コロナ禍における開発的生徒指導～	山口県立萩商工高等学校
54	1日35分の活用法と効果 ～主体的な学習確立に向けての1歩～	京都府立福知山高等学校
55	提携相談の推進 ～小中学校へのサポート体制の構築～	愛知県立ひいらぎ特別支援学校
56	ダブルスワークの推進 ～光高から発信する働き方改革～	富山県立南砺福光高等学校
57	誰もが居心地の良い学校 ～人間関係形成を意識した学級づくり～	山梨県富士河口湖町立勝山小学校
58	考えを深めるみんなの学校 ～学習し続ける意識を高める教育活動～	愛知県名古屋市中区立八王子中学校
59	まちづくりの主人公の育成 ～地域とともにある学校をつくる～	京都府綴喜郡井手町立多賀小学校
60	地域とともにある学校 ～ふるさとを愛し地域に貢献する生徒～	山口県下松市立久保中学校
61	子どもの自信を育てよう ～起業体験学習で自己肯定感UP～	富山県滑川市立早月中学校
62	不登校防止システムの構築 ～職員の連携と支援室の整備を通して～	福島県福島市立福島第四中学校
63	深い学びに迫る学習指導 ～チーム力で強みを生む学校づくり～	福島県相馬市立中村第一中学校
64	藤南スタイルの授業実践 ～教科の枠を超えた相互授業参観～	茨城県取手市立藤代南中学校
65	チーム八重山高校の挑戦 ～職員・生徒・保護者で遅刻者数減～	沖縄県立八重山高等学校
66	危機管理意識の向上 ～防災教育の推進と感染症対策の取組～	茨城県常総市立大花羽小学校
67	今できる事はすぐにやろう ～コロナ禍でも止めない、働き方改革～	茨城県笠間市立北川根小学校
68	担任力向上プロジェクト ～教師も生徒も皆が学ぶチーム作り～	学校法人鎌形学園東京学館新潟高等学校
69	コミュニティスクール稲田 ～小中一貫教育の取組を生かして～	茨城県笠間市立稲田中学校
70	『総合実践』の指導実践 ～グローバル人材の育成を目指して～	沖縄県立具志川商業高等学校
71	ふるさと甲州市の魅力発見 ～地域と共に歩む学校プロジェクト～	山梨県甲州市立塩山南小学校
72	ガイダンスシートの導入 ～学習単元を意識するための工夫～	茨城県日立市立久慈中学校
73	カリマネは地域教材が1番 ～家庭と地域と連携・協働のPDCA～	福岡県古賀市立花見小学校
74	生きた知識と学びの力 つなぐ・つなげる・つなげる～	青森県十和田市立第一中学校
75	今こそ「チーム」に！ ～教職員の意識改革を目指して～	愛知県名古屋市中区立西養護学校
76	カリマネのシステム化 ～キャリアを軸につなげる小中一貫校～	京都府京都市立凌風小中学校
77	主体性を育む授業研究 ～コロナに負けない分散型授業研～	京都府京田辺市立三山木小学校
78	地域と共にある学校づくり ～「双方向の関係強化」の取組～	熊本県御船町立七滝中央小学校
79	働きがいのある職場づくり ～チーム力向上と多忙化解消の工夫～	福島県福島市立大森小学校
80	主体的に取り組む職員育成 ～業務効率を高め、協働する職員集団～	鹿児島県立串木野養護学校
81	校内研修の日常化 ～相互参観・交換授業で授業力アップ～	佐賀県唐津市立吉田小学校
82	働き方改革は、生き方改革 ～意識改革で幸福度の充実を～	滋賀県大津市立仰木の里東小学校
83	「学びたい!!」校内研修 ～子どもも大人もワクワク学ぼう～	徳島県上板町立高志小学校
84	学校と地域の協働活動 ～世界遺産姫路城中曲輪蝶園創造事業～	兵庫県姫路市立白鷺小中学校
85	校内研修から組織を変える ～タワー型からプラネット型への転換～	茨城県桜川市立樟穂小学校
86	チャレンジ学校改革・浦安 ～未来を見据えた学校ビジョンの構築～	東海大学付属浦安高等学校・中等部
87	個業から「チーム福西」へ ～働き方改革はみんなの命を輝かせる～	京都府京都市立福西小学校
88	未知との遭遇 ～教員全員が新技術を活用する～	福岡県立筑紫中央高等学校
89	地域と共にある学校づくり ～阿久根・大川を再発見！～	鹿児島県阿久根市立大川小学校
90	児童が真ん中の学校改革 ～きほんの共通理解でみんな楽しく～	熊本県八代市立郡築小学校
91	一枚岩の学校へ ～ランドデザインの作成を通して～	富山県立新湊高等学校
92	個に応じた教育と授業改善 ～八木山コミュニティスクールの取組～	福岡県飯塚市立八木山小学校
93	授業以外にもICTを活用 ～手間をかけずに学校全体を活性化～	宮城県仙台第三高等学校
94	トライし続ける教職員育成 ～人材育成指標の活用～	神奈川県横浜市立荏田西小学校
95	学ぶことを楽しむ子の育成 ～楽しいが聞こえる授業を目指して～	京都府京都市立養正小学校
96	臨時休業中の学校運営 ～RPDCAサイクルを生かして～	茨城県守谷市立大野小学校
97	SDGs達成に向けた取組 ～子ども達一人ひとりの思いを世界に～	学校法人育英学院町田サレジオ幼稚園
98	好きが広がる学校文化作り ～私が好き・学校が好き・地域が好き～	福島県伊達郡川俣町立福田小学校
99	主体性の量的評価化と共有 ～多忙化解消と生徒の主体性アップ！～	青森県立大湊高等学校
100	全国学テ結果分析後の取組 ～苦手分野の実質的な克服を目指して～	北海道室蘭市立白蘭小学校
101	ヒヤリ!ハット! 服務研修 ～ミドルリーダーの実践例～	東京都杉並区立天沼中学校
102	阿小スタイルの追究 ～全ては子ども達のために～	栃木県高根沢町立阿久津小学校
103	見つめ直そう 学びと心 ～ピンチをチャンスに変える教育課程～	兵庫県明石市立二見西小学校
104	研修モデルwithコロナ ～幼幼小中、教員も学びを止めない～	大阪府箕面市立豊川南小学校
105	地域への情報発信の推進 ～SWOT分析で課題を共通認識して～	愛知教育大学附属特別支援学校
106	道徳は難しいと言わせない ～教師も自分事として全校体制で！～	鹿児島県徳之島町立神之嶺小学校
107	目指せチェンジメーカー! ～学校教育目標づくりを通して～	宮城県遠田郡美里町立不動堂中学校
108	新たな自主研修活動の形 ～授業改善プロジェクトチームの活動～	福井県立武生高等学校

No.	活 動 名	エントリー名
109	校内研修で教員集団づくり ～探究的な学びを進め学校を活性化～	福井県立三国高等学校
110	学校における働き方改革 ～事務職員にできる業務改善とは～	山口県柳井市立柳井中学校
111	小規模校の強みを生かす ～「つなぐ」をテーマに学校改善～	新潟県上越市立明治小学校
112	高め合い支え合う組織作り ～主体性と繋がりを育むPDCA改善～	宮城県仙台市立沖野小学校
113	見守り隊による挨拶運動 ～よい挨拶が増えたカード渡し～	愛媛県四国中央市立三島小学校
114	働き方改革は学び方改革 ～カエル会議で学校をカエル!!～	山梨県富士吉田市立吉田小学校
115	廿特版アクション・プラン ～資質・能力「はつかいち」の追求～	広島県立廿日市特別支援学校
116	遠隔授業の効果的運用	長崎県対馬市立厳原北小学校
117	困り感を主体性に変える ～教職員も子供もリデュースストレス～	兵庫県姫路市立城北小学校
118	一点突破Webアンケート ～調査の効率化と業務改善の推進～	滋賀県高島市立安曇川中学校
119	いきいき子供・教師改革 ～学級経営・授業力向上マネジメント～	岐阜県恵那市立大井第二小学校
120	組織力向上と教師力向上 ～温かい学校・授業づくりをめざして～	福井県勝山市立村岡小学校
121	麻高探究ワンチーム大作戦 ～生徒の未来を輝かせる協働の和～	神奈川県立麻溝台高等学校
122	分散型全校研究の実施 ～新型コロナウイルス感染症への対応～	京都府立南山城支援学校
123	予算を獲得し学校を変える ～特別支援学級新設をコーディネート～	岩手県一関市立花泉小学校
124	高校における特別支援教育 ～外部との連携を密に指導指針を構築～	富山県立中央農業高等学校
125	子どもと創るチーム東雲 ～コロナ禍における縦と横の繋がり～	広島大学附属東雲小学校
126	道德教育の推進 ～PDCAサイクルによる授業力向上～	富山県富山市立山室中学校
127	地域と共に歩む学校づくり ～体験活動を中心としたキャリア教育～	埼玉県入間市立野田中学校
128	学びのかけ橋プロジェクト ～コロナ禍でもできる! 幼小中の連携～	徳島県石井町立浦庄小学校
129	チーム力を高める学校組織 ～学校と地域とのチーム力の構築～	山梨県大月市立初狩小学校
130	学校経営の活性化 ～3つの「し」に注目して～	山口県岩国市立玖珂中学校
131	夢を持ち自ら学ぶ子へ ～コロナ禍の休校で必要な資質は?～	大分県別府市立亀川小学校
132	新任教諭応援プロジェクト ～SWOT分析で自信と戦略を～	青森県青森市立新城中央小学校
133	チーム宮城野 ～教職員がチームとなり課題解決へ～	宮城県仙台市立宮城野中学校
134	発達障害への理解について ～二次障害の防止を目的として～	静岡県立榛原高等学校
135	ひまわり Reborn ～カリ・マネでキャリア教育再出発～	秋田県大館市立釈迦内小学校
136	イキイキ学校経営計画! ～自ら考え創造する職員室に～	広島県庄原市立山内小学校
137	未来の学びを拓く教育課程 ～SDGsで教科横断的な学びを推進～	新潟県長岡市立太田小学校・太田中学校
138	自由参加型研修会でつなぐ ～世代と意識と専門性 3つの視点で～	香川県立香川丸亀養護学校
139	キャリア教育リニューアル ～キャリア・パスポートの導入と活用～	島根県立石見養護学校
140	笑顔あふれる学校をめざす ～自ら学ぶ子を育成する大久保魂～	兵庫県明石市立大久保小学校
141	部活動指導員制度の導入 ～えっ!できるの?⇒できました!～	佐賀大学教育学部附属中学校
142	統合事業の取り組み ～ふたつの科の統合で必要なもの～	神奈川県立横須賀南高等学校
143	ビジョンの明確化と共有 ～チームで戦略的なアプローチ～	兵庫県伊丹市立鴻池小学校
144	教職員の総活躍を期待して ～学校組織マネジメントを活かす～	埼玉県加須市立騎西中学校
145		
146	個を大切にしたりマネ ～表現力向上プロジェクトを通して～	長崎県諫早市立大草小学校
147	つながる広がる教育活動へ ～課題をみんなの共有財産に変える～	愛知県名古屋市中津賀田中学校
148	働き方改革の具現化 ～時間外在校等時間の縮減に向けて～	埼玉県さいたま市立仲本小学校
149	本気の働き方改革への挑戦 ～浦和中学校が「できること」の実践～	埼玉県さいたま市立浦和中学校
150	学びと地域をつなぐ ～学校行事から始めるカリ・マネ～	福島県二本松市立大平小学校
151	子供たちと共に過ごす学校 ～より良く、向き合える体制づくり～	宮城県仙台市立蒲町中学校
152	農で学び、農で支える ～農業教育で育む「生徒の夢実現」～	沖縄県立南部農林高等学校
153	授業力向上への取り組み ～授業改善のための効果的な校内研修～	茨城県立土浦湖北高等学校
154	地域と創る外国語教育 ～「広げる」「深める」視点から～	千葉県千葉市立小中台南小学校
155	キャリア教育の取り組み ～地域連携型体験授業をととして～	大阪教育大学附属特別支援学校
156	授業力向上について ～教育実習生の視点に立つ授業改善～	東京学芸大学附属世田谷中学校
157	チーム岩小で授業改善 ～道徳を核とした授業力向上に向けて～	茨城県土浦市立大岩田小学校
158	教育目標に向き合う学校 ～生活・総合を核にしたカリ・マネ～	香川県三豊市立比地小学校
159	公立高校の魅力発信 ～選ばれる高校を目指して～	静岡県立科学技術高等学校
160	時間割編成で働き方改革 ～空き時間を操作して有効活用～	香川県琴平町立琴平中学校
161	見直しつなぐチーム川東 ～一人一役分業制と人材育成～	岡山県真庭市立川東小学校
162	組織的授業研究プログラム ～新学習指導要領を意識～	神奈川県立新羽高等学校
163	同僚性を高め合える組織へ ～浜商版実証実験から見えてきたもの～	島根県立浜田商業高等学校
164	資質・能力の育成に向けて ～カリキュラムマネジメント・モデル～	愛知県西尾市立佐久島しおさい学校

No.	活 動 名	エントリー名
165	プロジェクト型校内研 ～皆で実践事例集を作って学び合おう～	広島県福山市立福山中・高等学校
166	一致団結 ～主体的に学ぶ生徒の育成を目指して～	岡山県倉敷市立庄中学校
167	キャリア教育でカリマネ ～具体的な「16の姿」を核として～	鹿児島県出水市立鶴荘学園
168	教科等横断的な授業づくり ～思考力育成を目指す研究の取り組み～	熊本大学教育学部附属中学校
169	連絡手段のリアルタイム化 ～アンケートメールで仕事の効率化～	滋賀県立草津養護学校
170	令和式新しい教員の働き方 ～子どもと授業に全力を注げる環境へ～	大阪府泉南市立樽井小学校
171	創り出そう、学びあい！ ～時間や内容を工夫した研修企画～	高知県立高知若草特別支援学校子鹿園分校
172	事務職員の働き方改革 ～業務実態把握と超過勤務縮減の取組～	岩手県滝沢市立滝沢中央小学校
173	同中学びプロジェクト ～生徒と教職員が共に育ちあう空間～	同志社中学校
174	生徒が創る「中主」の未来 ～地域との協働・循環カリキュラム～	滋賀県野洲市立中主中学校
175	若手教員からの発信！ ～チームで、悩み解決、チームも成長～	香川県さぬき市立さぬき北小学校
176	時代に対応できる教員へ ～今あるICTと地域人材を活用して～	富山大学人間発達科学部附属中学校
177	学校評価機プロジェクト ～思いを繋ぐ組織マネジメント～	広島県広島市立落合小学校
178	小中連携「理想を現実」に ～有機的な連携・協働を通して～	山口県岩国市立川下中学校
179	コロナに負けない学校に！ ～学校DX化で安心＆安全→信頼関係～	富山県高岡市立能町小学校
180	自己肯定感を育てる取組 ～全職員で取り組む自己肯定感の育成～	広島県広島市立五月が丘小学校
181	主体的に学ぶ校内研修 ～メンタリングによる研修を通して～	福岡県久山町立久原小学校
182	魅力ある学校づくり ～生徒によりそった指導の実践～	神奈川県横須賀市立不入斗中学校
183	生徒サポートで教師も救う ～不登校生と教師を支える体制づくり～	鹿児島大学教育学部附属中学校
184	普通科の魅力向上に向けて ～「チーム普通科」への意識を高める～	愛媛県立吉田高等学校
185	カリマネ視点の学校づくり ～授業も会議も脱「例年通り」～	大阪府泉南市立信達中学校
186	コロナ禍における学習支援 ～教材配信による家庭学習のサポート～	宇都宮大学共同教育学部附属小学校
187	複数担任制への取り組み ～今後の指導体制の在り方を探る～	岐阜大学教育学部附属小中学校
188	チーム一丸！魅力ある学校 ～児童の達成感を高める3つの気～	福島県いわき市立豊間小学校
189	探究×キャリアデザイン ～自走できる生徒の育成を目指して～	北海道登別明日中等教育学校
190	全校での授業方式の統一 ～全クラス共通の学習様式で授業する～	滋賀県守山市立物部小学校
191	チーム広南で未来を創る ～開発的アプローチで資質・能力育成～	広島県呉市立広南中学校
192	学校リニューアル ～PDCAを楽しむ職員とともに～	福岡県福岡市立千代小学校
193	主体的に学ぶ児童の育成 ～教職員全体で進めるカリ・マネ～	広島県三次市立みらさか小学校
194	時間外勤務削減を目指して ～業務改善及び意識の変革を促す取組～	広島県北広島町立大朝小学校
195	幼・小・中でSDGs推進 ～校区パートナーシップでリサイクル～	兵庫県明石市立錦城中学校
196	「持続可能」な教育実習 ～教員の仕事の魅力が伝わる実習に～	神奈川県横浜市立緑園西小学校
197	学力向上と学習習慣の定着 ～全校体制で取り組む学力向上大作戦～	福岡県北九州市立石峯中学校
198	本校の魅力化の向上 ～学校の強みを活かした取組～	栃木県立益子芳星高等学校
199	学校ワークスタイル改革 ～マネジメントで業務改善～	愛媛県今治市立上浦小学校
200	キッズ☆カンパニー ～地域と育む「ふるさとと生きる力」～	茨城県美浦村立木原小学校
201	若手と一緒に理科カリマネ ～指導と評価の一体化を目指して～	東京学芸大学附属高等学校
202	学びをつなぐ生徒の育成 ～単元配列表の作成～	岐阜県岐阜市立加納中学校
203	協同学習の活性化 ～考えるための技法の活用～	岐阜県岐阜市立加納中学校
204	課題を解決する協働的組織 ～課題意識の共有とCo.の役割～	宮城県仙台市立六郷小学校
205	体力向上マネジメント ～業務改善の視点を通して～	岩手県一関市立花泉小学校
206	学びがつくる三方よし ～社会に開かれた総合的な学習の時間～	島根県知夫村立知夫小中学校
207	関わりがもっと広がるには ～保護者の意見で学校が活性化～	島根県吉賀町立蔵木小学校
208	いしかき人権プロジェクト ～地域との協働による人権学習～	和歌山県有田川町立石垣小学校
209	自己有用感を高める交流 ～小中一貫教育を核にした学校運営～	新潟県十日町市立下条中学校
210	よかばい！プロジェクト ～若手を軸によりより学校へ～	熊本県錦町立木上小学校
211	つながる学校図書館 ～多機能化による開かれた学びへ～	静岡県浜松市立芳川北小学校
212	危機管理意識の向上 ～服務に関する課題解決と教頭の役割～	青森県三沢市立第三中学校
213	「自分もやれる」を育てる ～学びの支援と自己有用感の醸成へ～	鳥取県立米子白鳳高等学校
214	強い学校組織の構築 ～全職員で取り組む意識～	広島県福山市立松永小学校
215	教職員集団の高まり ～継続的人材育成のシステム作り～	広島県福山市立松永小学校
216	新型コロナと学校運営 ～コロナ禍における校内研修の推進～	茨城県筑西市立村田小学校
217	どんな時も子供が真ん中！ ～休校中も子供を伸ばし続ける学校に～	熊本大学教育学部附属小学校



その取り組みが、 全国の先生たちの励みになる。

独立行政法人教職員支援機構(NITS・ニッツ)のウェブサイトでは、これまでのNITS大賞の受賞作品を掲載した事例集や、応募のあった全エントリーシートを公開しています。

互いにノウハウや経験を共有することで、各学校現場における効果的な実践に繋げていただければ幸いです。



第1回NITS大賞

研修成果の還元の工夫 ～動画教材をYouTubeで配信～

福井県立丹生高等学校 山口 明彦

活動概要

研修で得た学びを、若手、中堅教員それぞれの立場に応じてデジタル教材化し、YouTubeで配信することで、いつでもどこでも見ることができるようにした。校内研修だけでなく、校長会や県の教育センターでの活用にも繋ぐことで、多くの関係機関を巻き込んで普及を図った。



活動発表動画

第1回NITS大賞事例集はこちら https://www.nits.go.jp/education/grand_prize/outline/files/index_jirei_h29_004.pdf

第2回NITS大賞

チーム万中グッジョブ作戦 ～目指す生徒像に迫るPBISの実践～

宮城県石巻市立万石浦中学校 小山 晴美

活動概要

「生徒たちのどんな力を伸ばすか、指針が不明確」という課題に対し、「目指す生徒像」を共通の目標に掲げ、チームで教育実践の向上に取り組むとともに、生徒のよい言動を教員や生徒同士が「グッジョブカード」を用いて称賛する活動などを3年間にわたって行った。



活動発表動画

第2回NITS大賞事例集はこちら https://www.nits.go.jp/education/grand_prize/outline/files/002_jirei_001.pdf

第3回NITS大賞

大賞2点／P.11も参照

小中一貫で資質・能力育成 ～社会に開かれた教育課程で未来創造～

広島県呉市立広南中学校

活動概要

学校を核として地域が元気になるカリキュラムの創造を目指し、「貫きカリキュラム」の開発・改善をはじめ、カリキュラムマップの作成、教科横断の学校段階 間接続した地域協働型のカリキュラムの創造など挑戦的な試みを実施。



活動発表動画

あこがれがつなぐ学校文化 ～子供の力で発展し続ける学校づくり～

滋賀県彦根市立佐和山小学校

活動概要

6年生にあこがれを持つ学校づくりは、学校力のアップに多大な効果を期待できる。子どもの目線からスタートし、学校の価値観や文化を変えながら、いかにそれを継承していくか、ということに取り組んだ。子どもの視点とそれを支える学校教師の視点がうまくかみ合ったプロジェクト。



活動発表動画

第3回NITS大賞事例集はこちら https://www.nits.go.jp/education/grand_prize/outline/files/003_jirei_001.pdf



第4回NITS大賞
事例集



第4回NITS大賞
審査結果発表&講評

NITS大賞に関する
お問い合わせ先

独立行政法人 教職員支援機構
〒101-0047 東京都千代田区神田1丁目2番10号 羽衣ビル5階
Mail: award@ml.nits.go.jp Tel: 03-6811-0755・0756



独立行政法人教職員支援機構
ウェブサイト
<https://www.nits.go.jp/>